



規矩要法口傳私録

六ヨリ八迄

212
9
54

規矩要法口傳私録 212-54 02-001

国立国会図書館

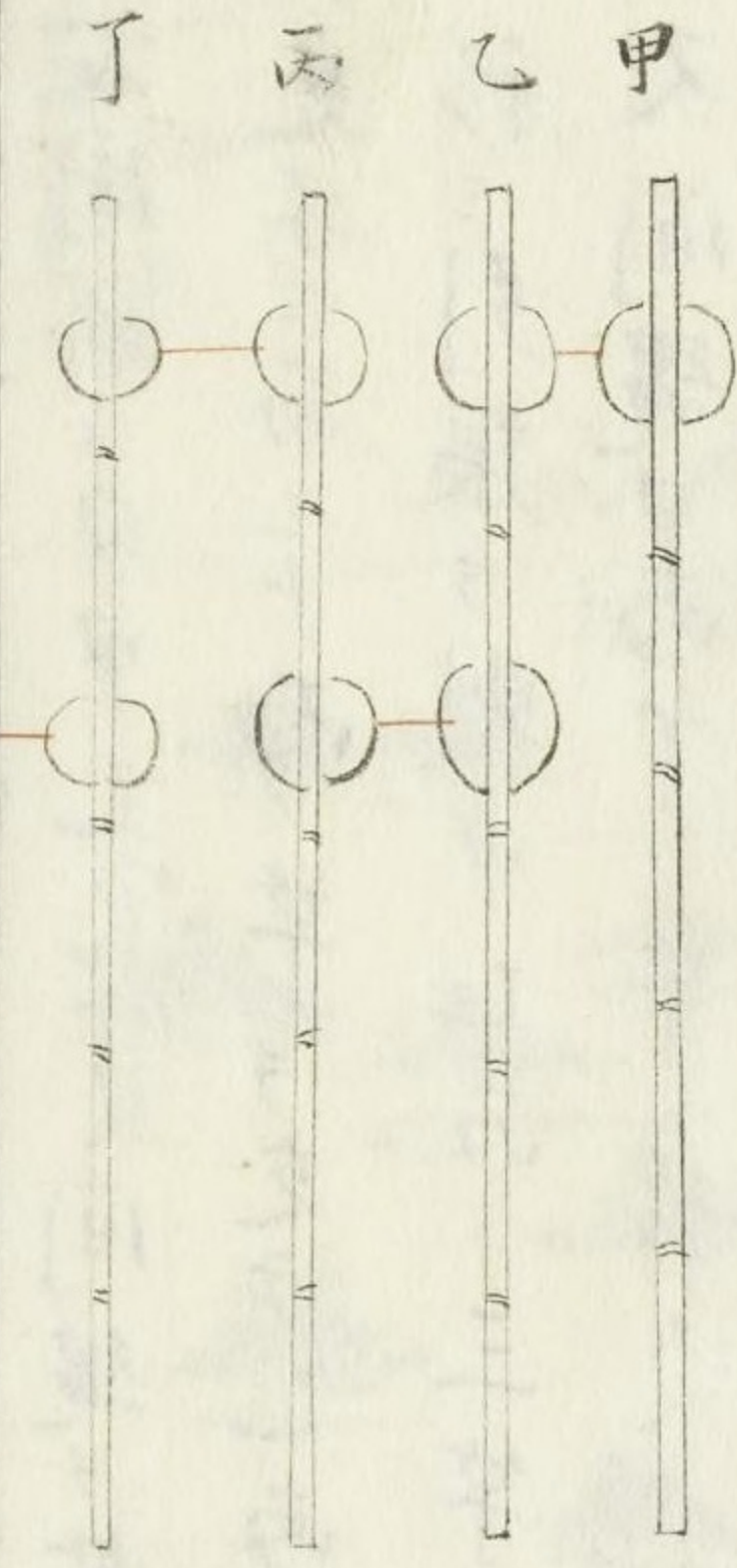




規矩要法條目口傳私録 六

同繩 杖傳

是ハ抽線之法ヲ成人時始終之遠近ヲ知シタメ
一段毎ニ水繩ヲ裁間ト定メ丙^西端ニ徑二寸ノ竹
ノヲ付是ヲ竿ニ貫キ引張ルナリ同ノ如シ



渡邊文庫





玉筭

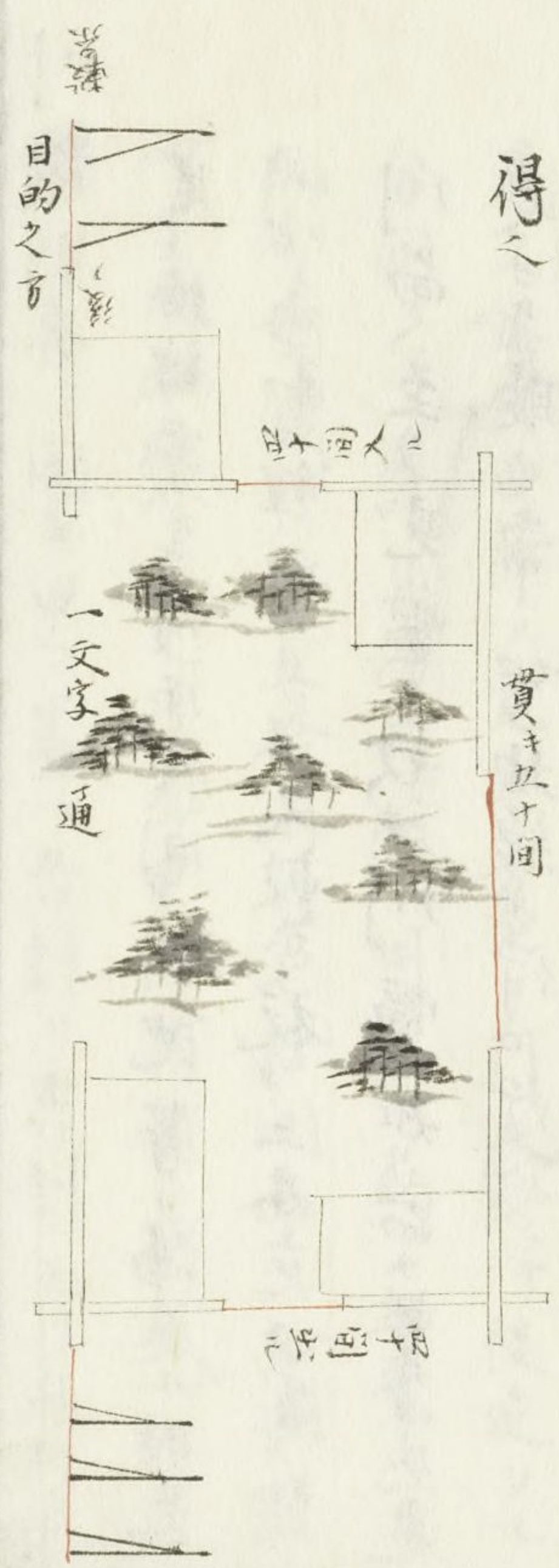
右図解、曰甲乙ノ竿ニ間繩ヲ貫キ引張目的ヲ見写シ而シテ丙ノ竿ヲ交テ乙丙ノ竿ニ間ニ繩ヲ移シ引張テ則甲乙丙ノ三竿ヲ一眼ニ見写シ又間繩ヲ丙丁ノ竿ニ移ス之又丁戊ノ竿ニ移モ同意ニシテ段々移スナリ何モ同意ニシテ段々移シ行ク

右間繩ノ段數ヲ記スハキ數取ナリ一段毎に一畫ヲ書シ玉ノ字出來スレハ五段ト知ル玉ノ字出來スレハ六段ト知ル之假如ハ玉ノ字如此出來ス

レハ十二段トシル之間繩二十間ナラハ則遠ナリ二百四十間ト知ル

真矩貫

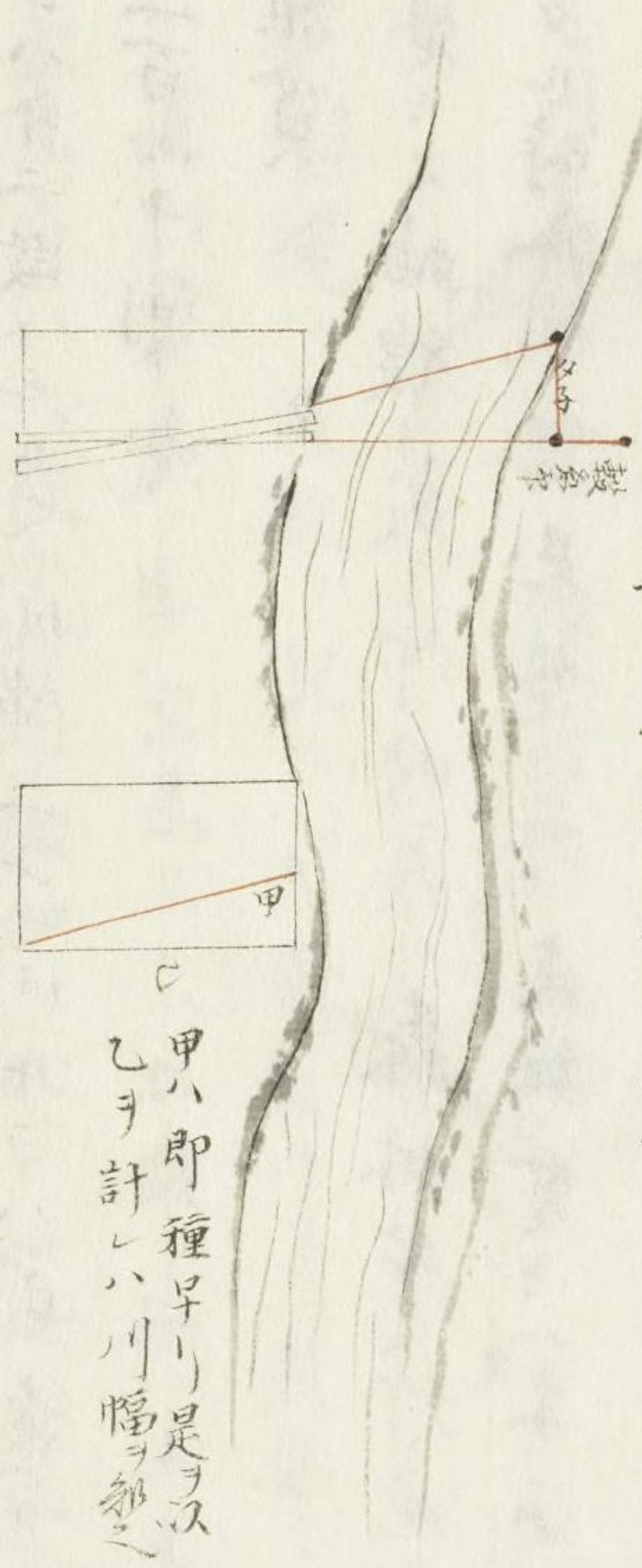
是モ又抽線ヲ成シ行時或ハ森林等ノ行キ廻リタル時ハ圖ノ如ク見盤ヲ以テ直矩ニ貫キ一字ノ通ヲ得之





川移

是モ抽線ヲ成シ行ハ其間ダ川池等ヲ隔タル時先ッ
川ノ手前ニ種印ヲ之テ又較糸板ヲ二本之テ置キ諸
川向、至リ見盤ヲ以テ川幅ヲ知リ而テ較糸ヲ見通
丈ヨリ段々常ノ如ク抽線ヲ行ヒ行ハ



甲ハ即種早リ是ヲ以テ計レハ川幅ヲ知ル

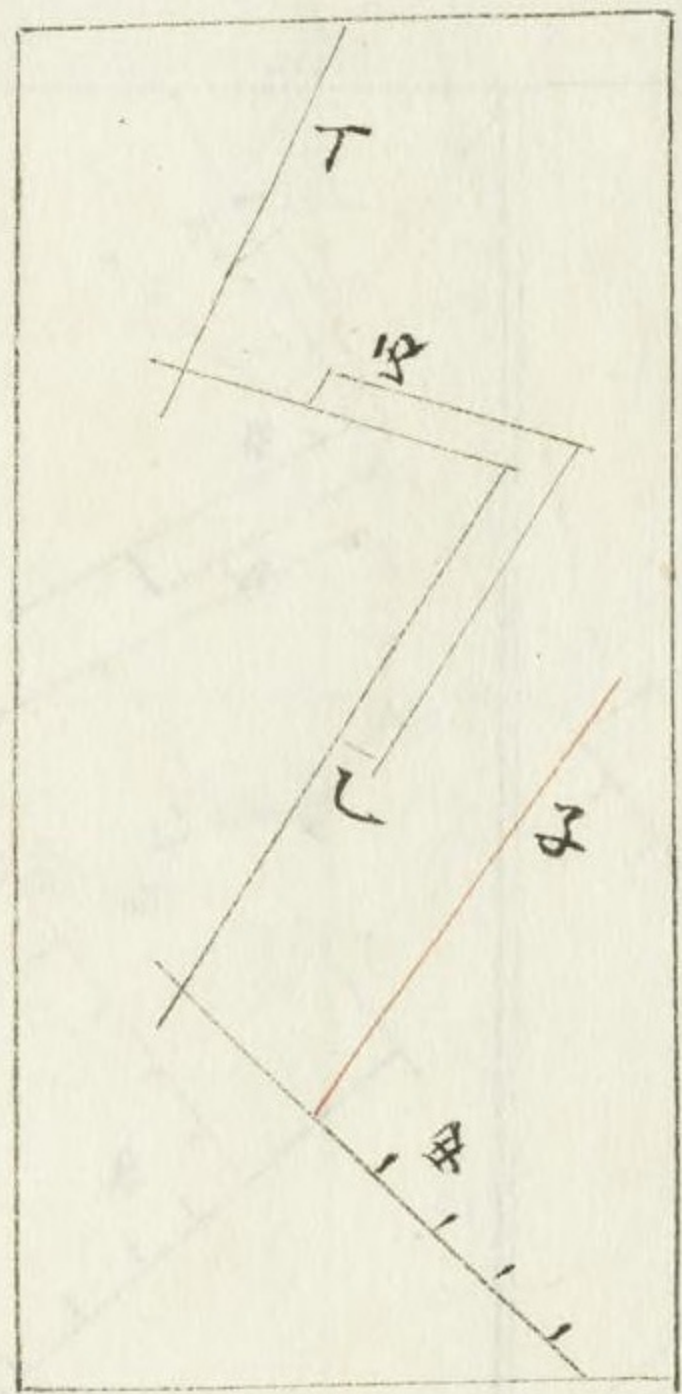
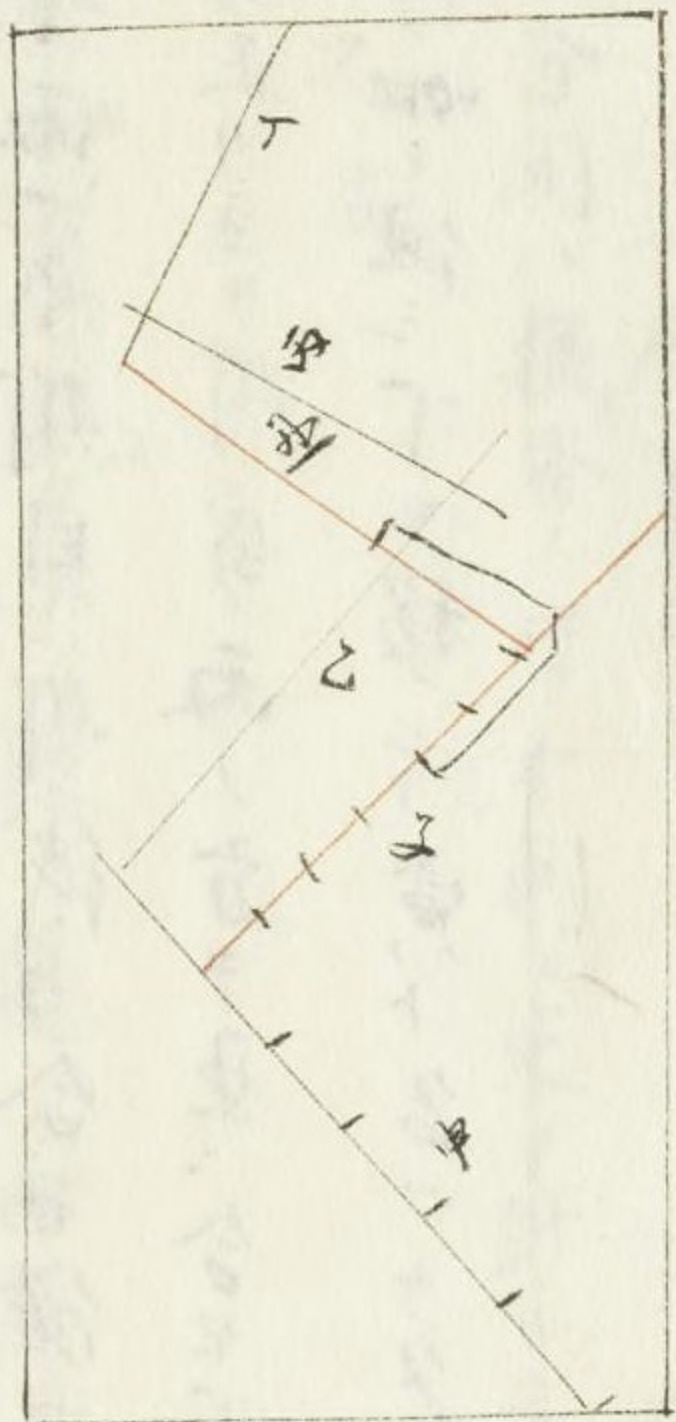
算計寫

是ハ屏風ノ開キヲ成ス片根糸ヲ開キ幾間ト右計ヲ云フ
但ミ寸分ヲ以テ分間ヲ定ルニ非ス只根糸ノ寸数間ト
右計タルヲ本書ニ分間ト云フ

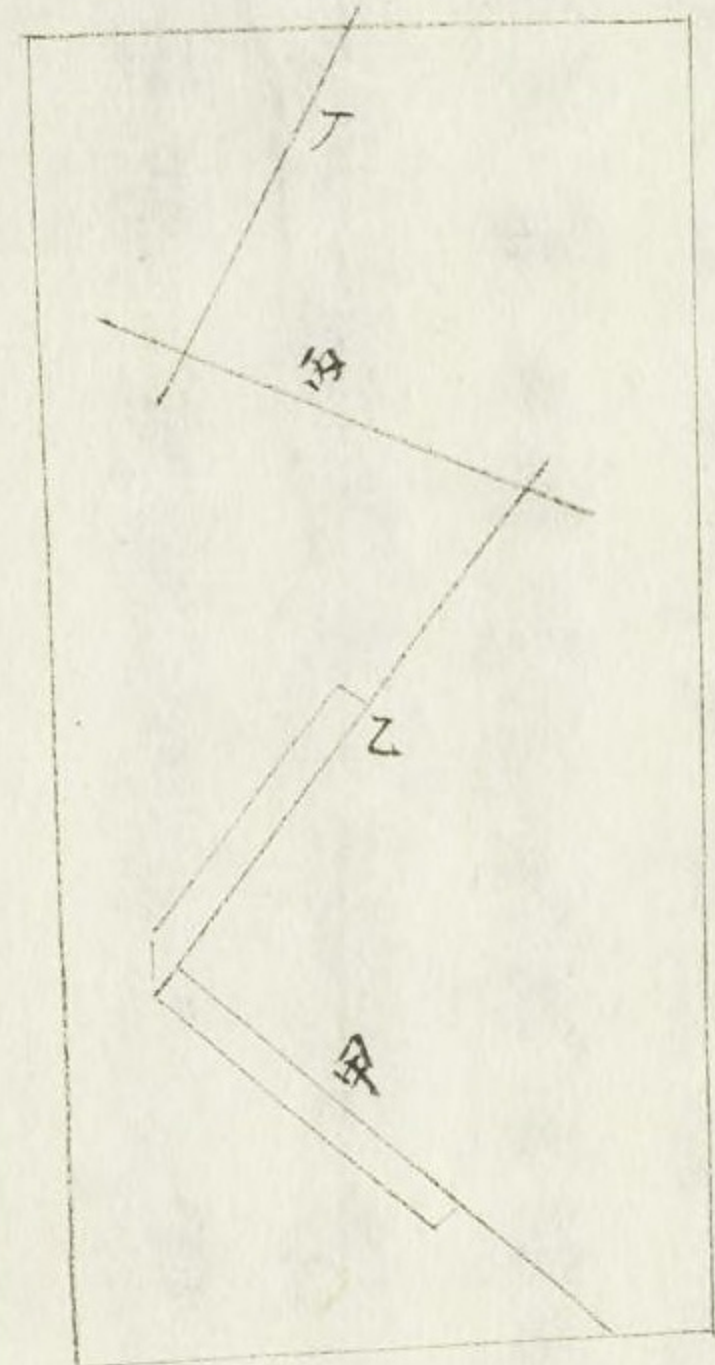
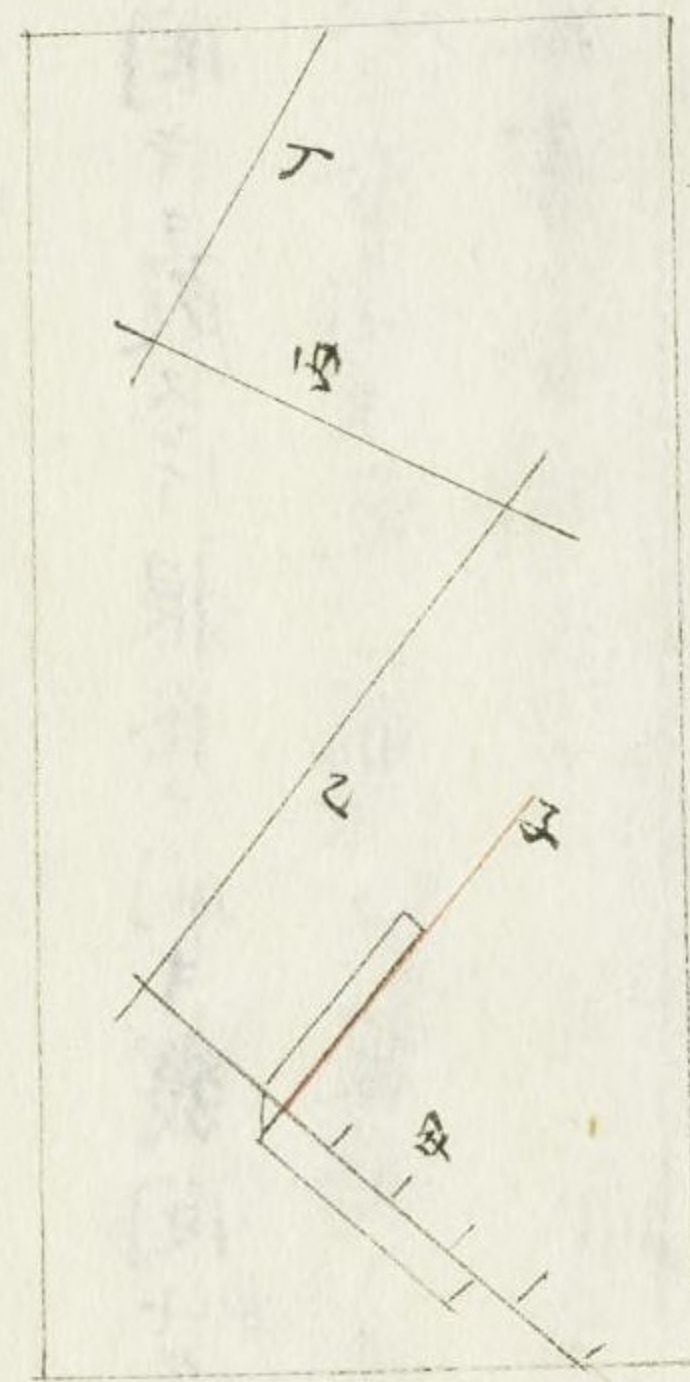
分間約法

是又屏風曲葎ノ見通ノ墨ヲ引キ終テ後定タル
分間ヲ以テ計リ諸折紙ヲ用テ形ヲ約ル業ナリ
左方、如シ假如ハ甲五拾間乙七拾間丙六拾間丁
四十間如此モ有之序先甲乙ノ折目ニ折紙ヲ合セ
諸渾糸ヲ開キ甲ノ墨ヲ以テ計リ其計止リ逆折紙





次ニ乙丙ノ墨ヲ折紙ニ合セ儲テ乙ノ方ヲ子ニ合セテ引
 付ケ又子ノ卦ヲ引セツ計リ其止リヨリ折紙ニ直テ丙ノ
 墨ヲ移ス

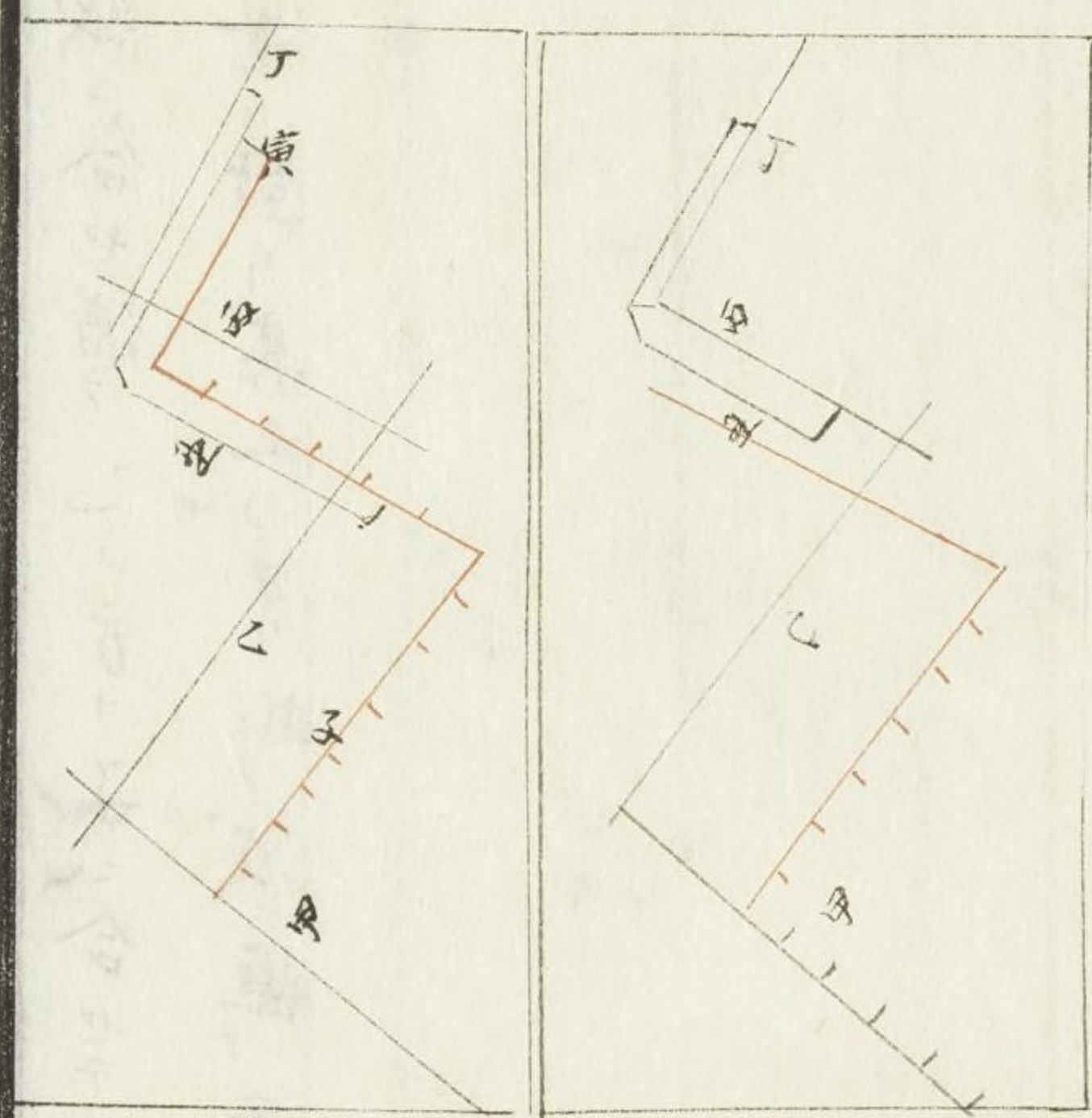


ヲ引付シノ墨ヲ移スニ左ノ圖ノ如シ

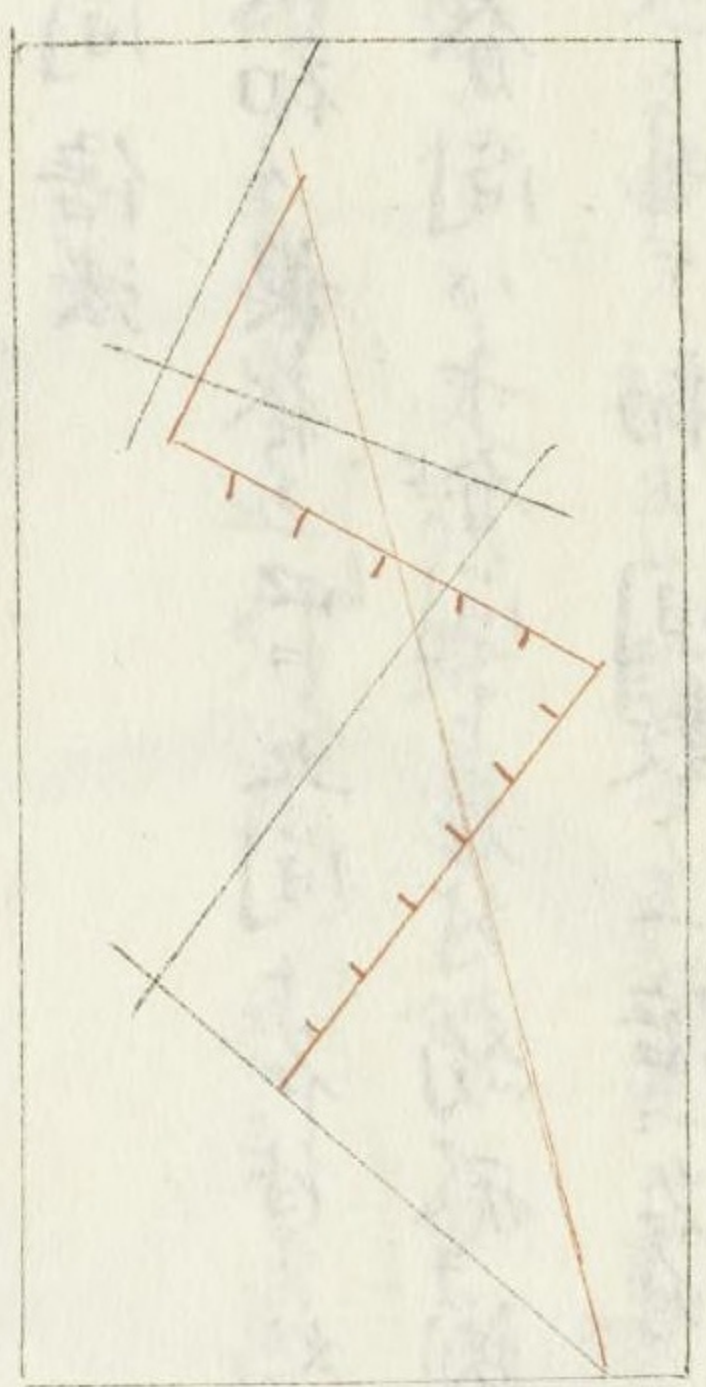




次ニ西下ノ折目ニ折紙ヲ合セ諸且ノ毛引ヲ六ツ計リ
 其止リヨリ折紙多兩ノ方ヲ也ニ合セ下ノ墨墨ヲ移スナリ
 左ノ如シ但シ下ヲ移シテ寅ト各ツケタル也



次ニ寅ヲ四ツ計リ諸テ甲ノ始ヨリ寅終ニ一文字ヲ引渡シ右之
 分間ヲ以テ計六貫キノ行裡ヲ得止ム



右分間ハ根齋ノ口ヲ十間ト定メ計ルモノ之
 盤縫之法

右ノ如ク屏風ヲ以テ段々道ノ曲節ニ隨テ見通ノ墨ヲ





引ニ曲節數多々及テハ盤尽テ其次ヨリ墨ヲ引ヘキ
 所ナキ時ハ此法ヲ以テ形ヲ約ムレハ盤上満足ニテ陰ノ
 目的迄ノ曲節ヲ摸シ得テ一文字ノ遠近并通リヲ
 指ス

附分間倍法

假如ハ初メ根奏ノ口ヲ五間ト名付テ約形ヲ成シタラハ盤
 繼ノ分間ハ十分間ト名付テ約形ヲ成スナリ畢竟初
 口ヲ直ニ用テ初ノ間數ノ一倍ニ名付テ盤繼ノ約形ニ用
 スル也

盤繼之再望

左ニ見^{証アリ}

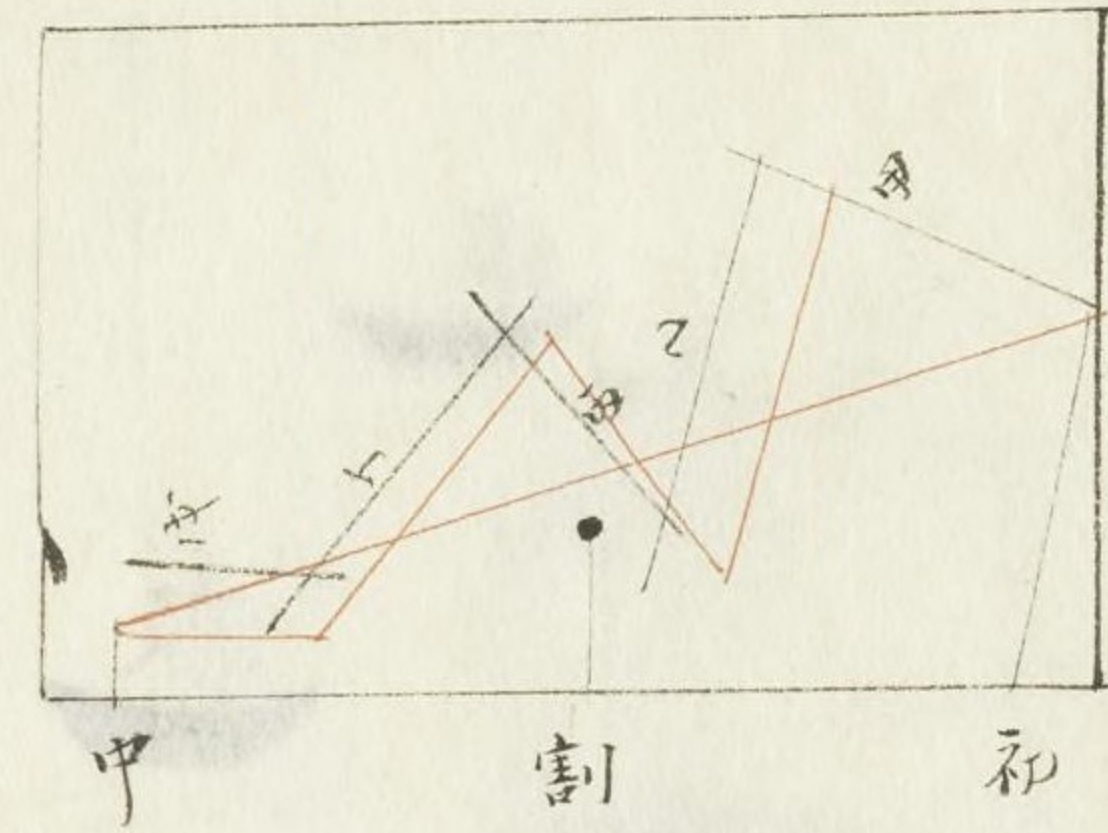
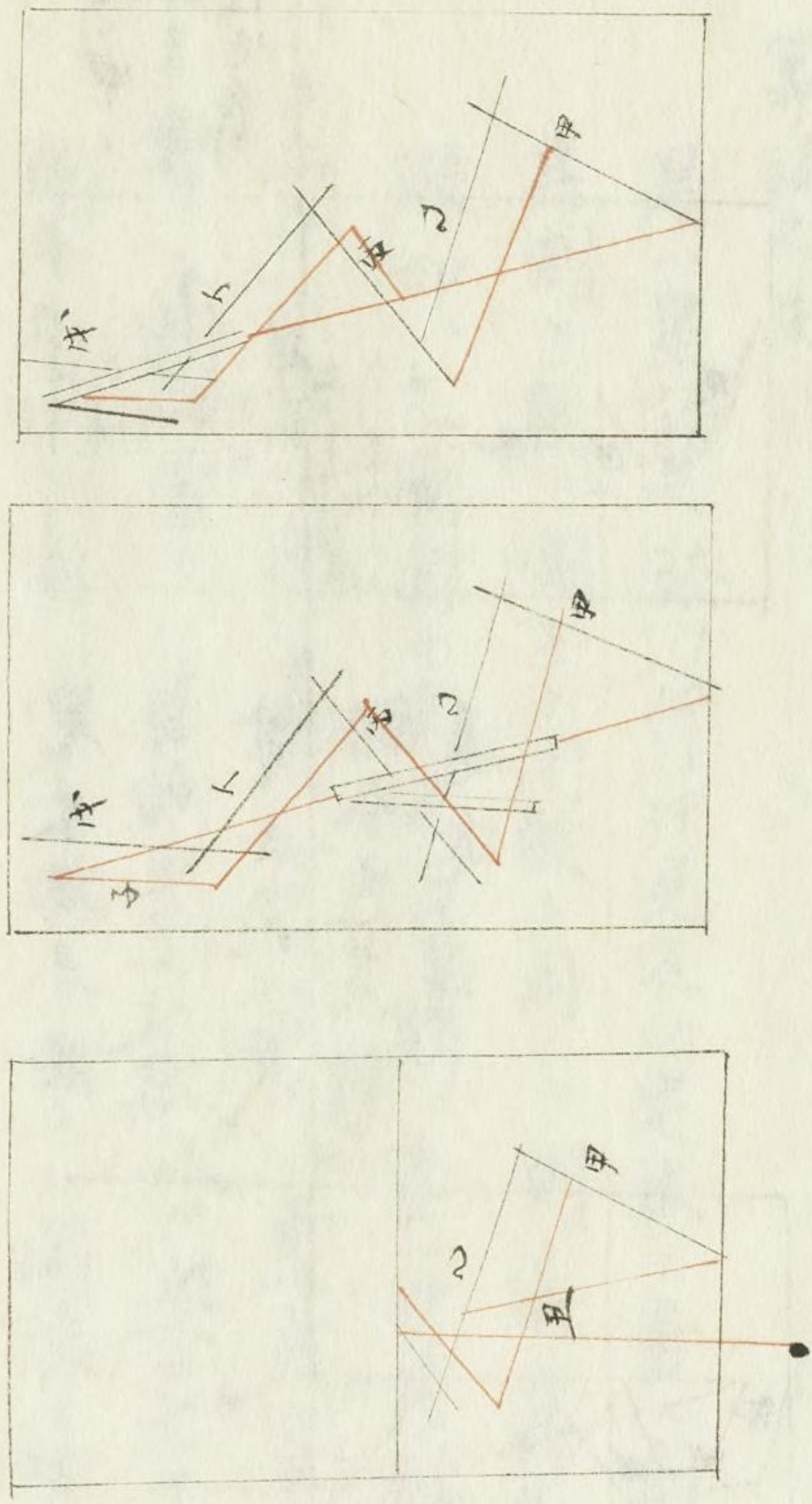
先ツ甲ノ初ヨリ段々見通シ墨引ニテ行ク時成ニ至テ
 盤尽キ又於此常ノ如ク分間ヲ定メ約形ニテ後ニ
 初ノヨリ中途引渡シ其引渡シヲ二ツニ割合スル之







次ニ割塚ヨリ赤ヲ別ノ白帛ヲ以張リ諸丑ノ卦ヲ以テ
 △ノ印ノ再望ニテ盤ヲ居ル是ヲ盤繩ノ再望ト云



割り塚

先ツ甲久初産ヨリ段々見通シ墨引シテ行時成ニ至テ
 盤ヲ又於此常ノ如ク分間ヲ定メ約形ニテ後ニ初ヨリ
 中迄引渡シ其引渡ヲニツ割合スルニ

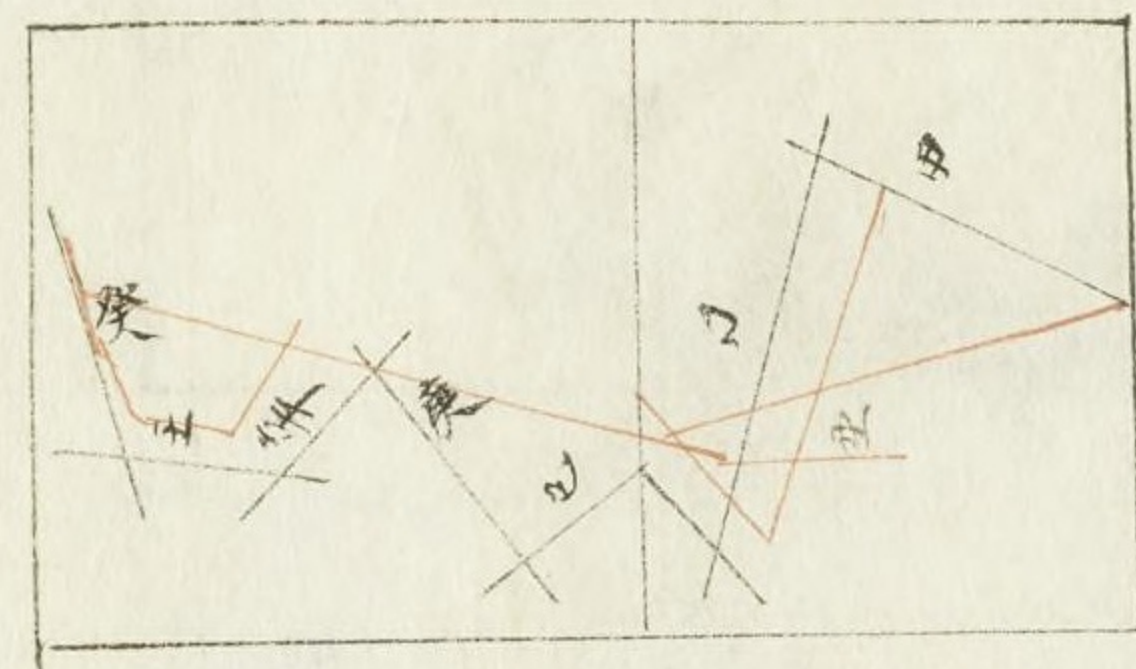
次ニ中ノ折目ニ折紙ヲ合セテ引
 渡シニ隨テ引付引塚ヲ要シ
 子ニ卦ヲ写シセノ卦ヲ得ル



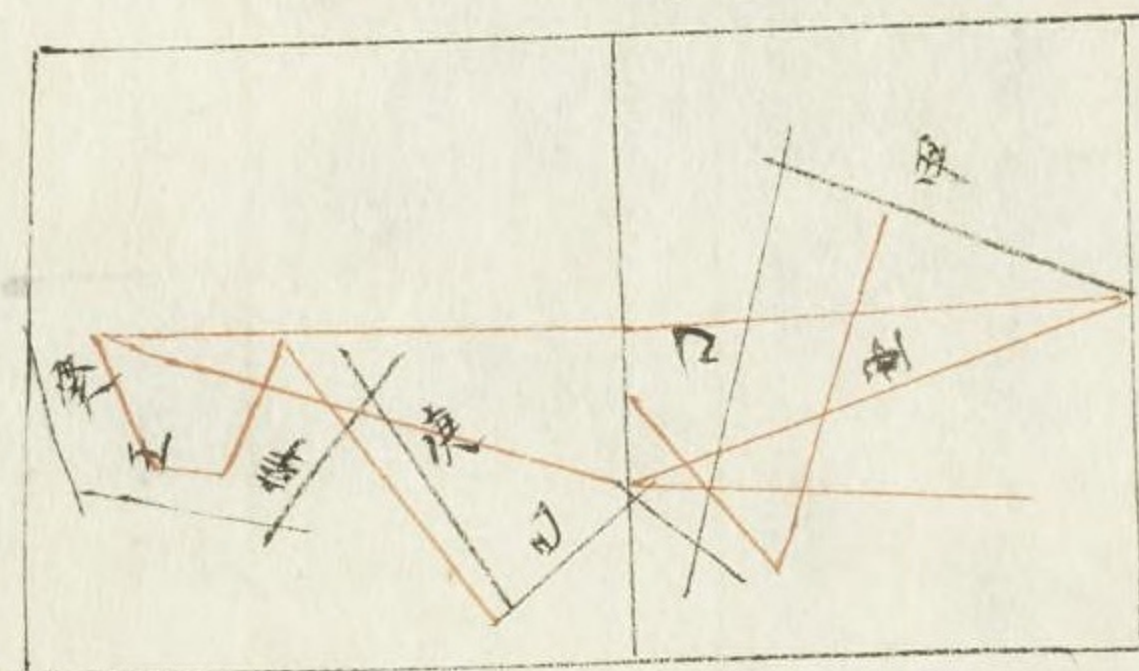


次、割塚ヲ要トシテ中ノ印ヨリ段々常ノ如ク見通シ
墨ヲ引行キ約形ヲ成シ而メ後中ヨリ後ヲ引
渡スナリ但シ於分間ノ倍法ヲ約形ヲ成シ

次ニ甲ノ
初ヨリ癸
後迄長針
ヲ引渡ス



是本場ヨリ陰ノ
目的迄ノ一文字
貫キ形ノ則チ
倍分見ヲ計ハ
遠近ヲ得ク



算法之用

是ハ星の之法ヲ行ハ見返ノ定本ノ當ル刻ヲ見テ
其割リ數ニ用キノ間數ヲ因シテ則遠近ヲ知ル
假如ハ九間用キ見返ニ三刻ニ當ル時其割リ數
二十ニ九間ヲ因シ遠近百八十間ト知之或ハ五間用
七ツノ刻ニ當ラハ其刻ノ割リ數ハケ五分セナリ是
用キ五間ヲ因シ四十二間ハ五ナリ間下ヲ切上
四十ニ三間ト知ルナル
見盤繼刻之制
是亦星のニ用フ時ニ臨ニ刻定本有リ合ハル所ニ



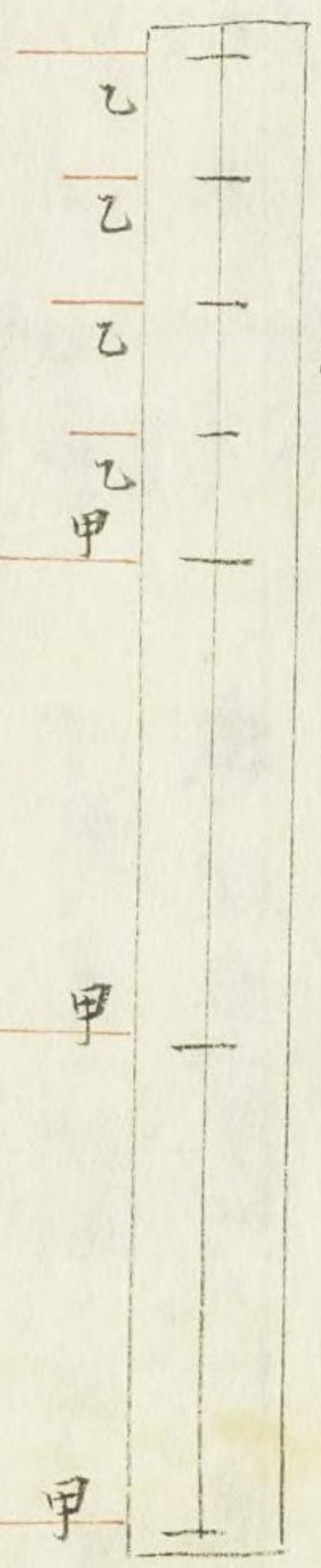


即座ニ設ル業ニ裡村ノ密ニテモ厚キヲ樞左同如
割ニ常ニ懐中ニテ用ル場ニ於テ見盤等ニ張り
常ノ定本ヲ裁ケ准矩ヲ成シ遠近ヲ得ニ勿論見當
用火并殘シ印ヲ交印ニモ火ヲ用ルコト常ノ如シ

○前後刻ノ割法ハ先ツ白密ヲ幅一寸程ニ長一尺
裡ニ短尺ニ裁テ真中ニ直折目ヲ付ケテ西端ニ横
墨ヲ引シテ其間ヲ九寸五分ニ定メ是ヲ六十ニ割其
一ツノ口ヲ後刻ノ一刻ノ間タトシ圖ノ如ク盛り付各
刻毎ニ割リ數ヲ書込スル又別ニ短尺ヲ他リ是又
西端ニ横墨ヲ以テ限リ其間ヲ八寸七分ニ定メ是ヲ

六十ニ割合セ其一ツノ口ヲ前刻ノ一刻ノ間タトシテ
如ク盛り付各每刻割數ヲ記ス也右六十ニ割合
九九ヲ用テ働テ割ルヘシ

六十ニ割リ合スル圖



西端ノ墨ノ相去ル所ヲ先ツ三ツニ割合セ甲ヲ得ル甲ヲ四ツ
割合テシテ得ル乙ヲ五ツニ割リ合セテ一刻ヲ得ナリ
但ニ一刻ハ前ハ一分四厘五毛ニ付タル後ノ一刻ハ一分
六厘ニ付タル





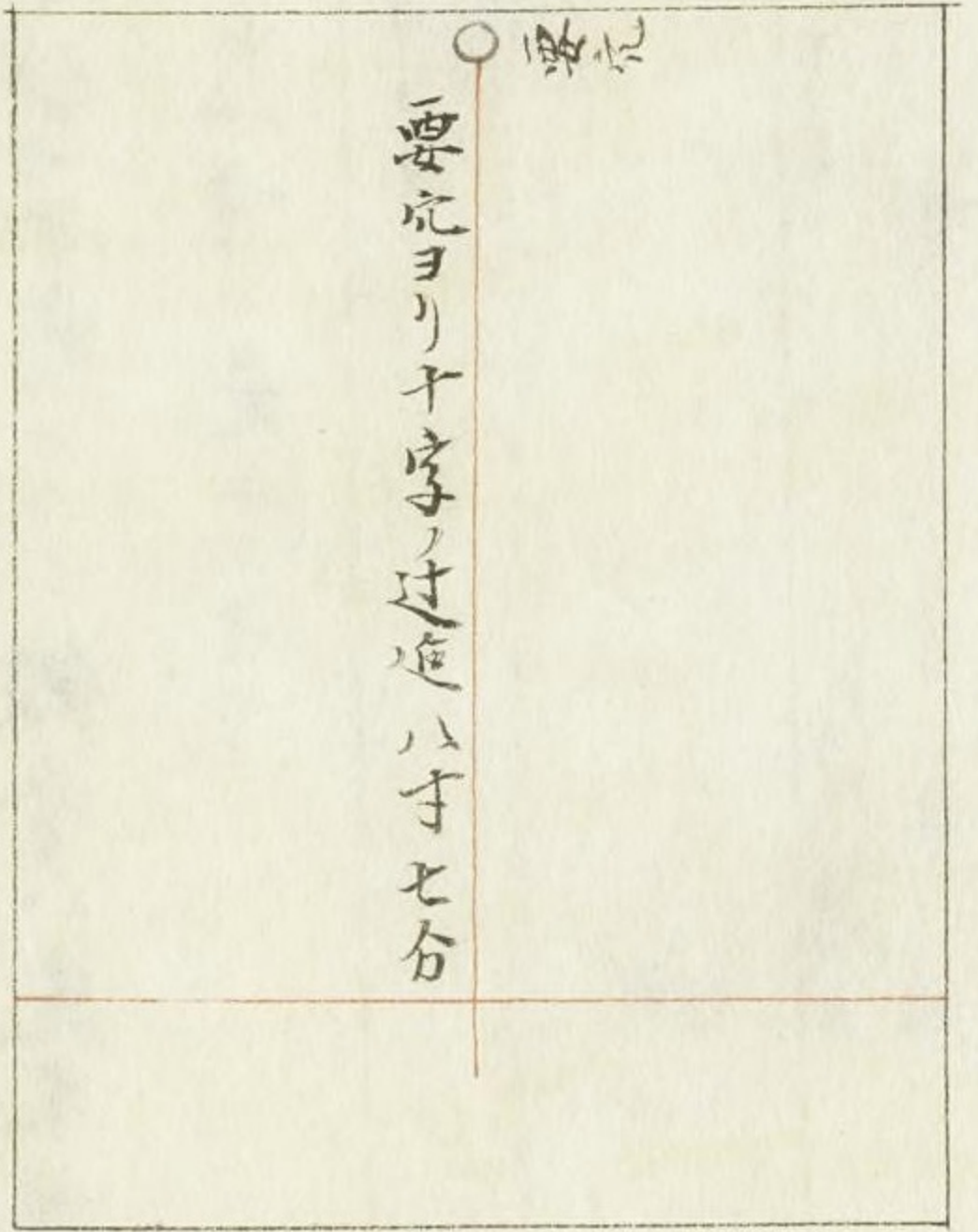
圖之刻綫

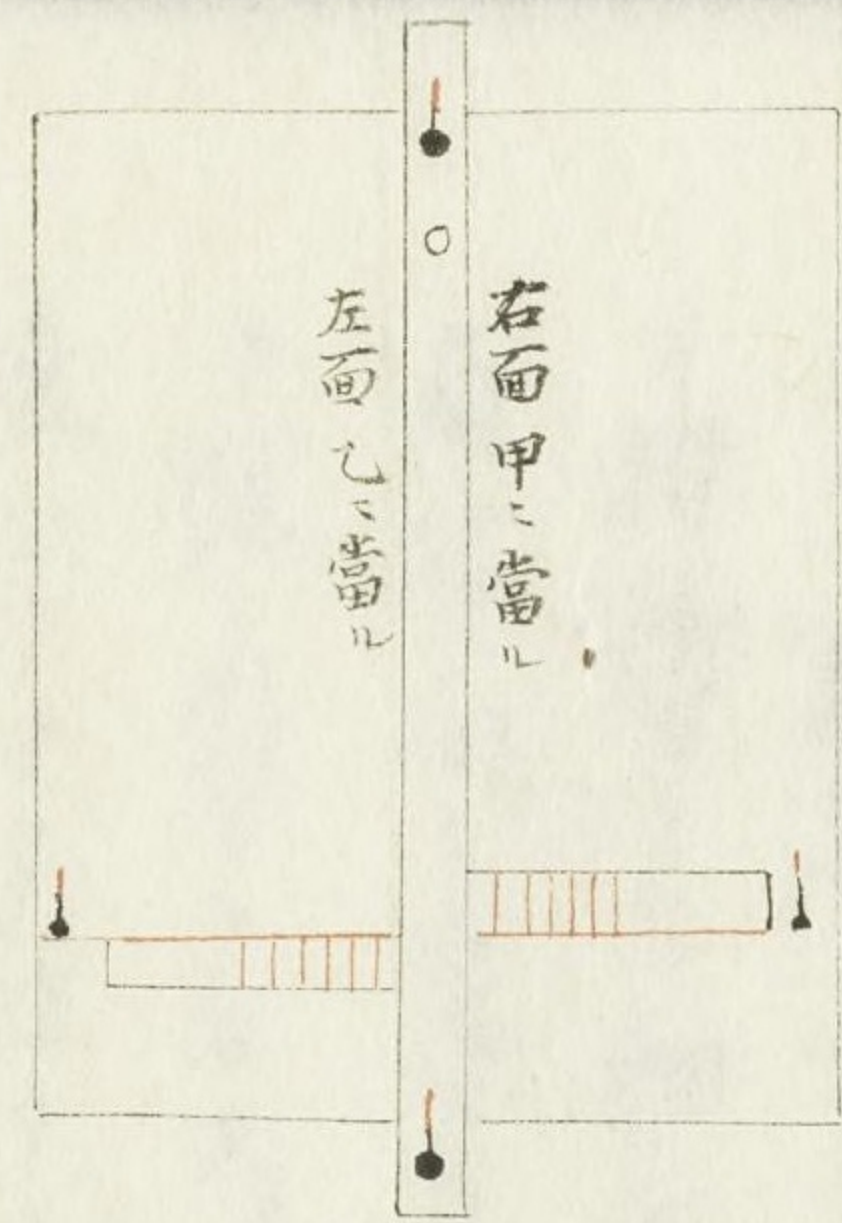
前	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

後	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

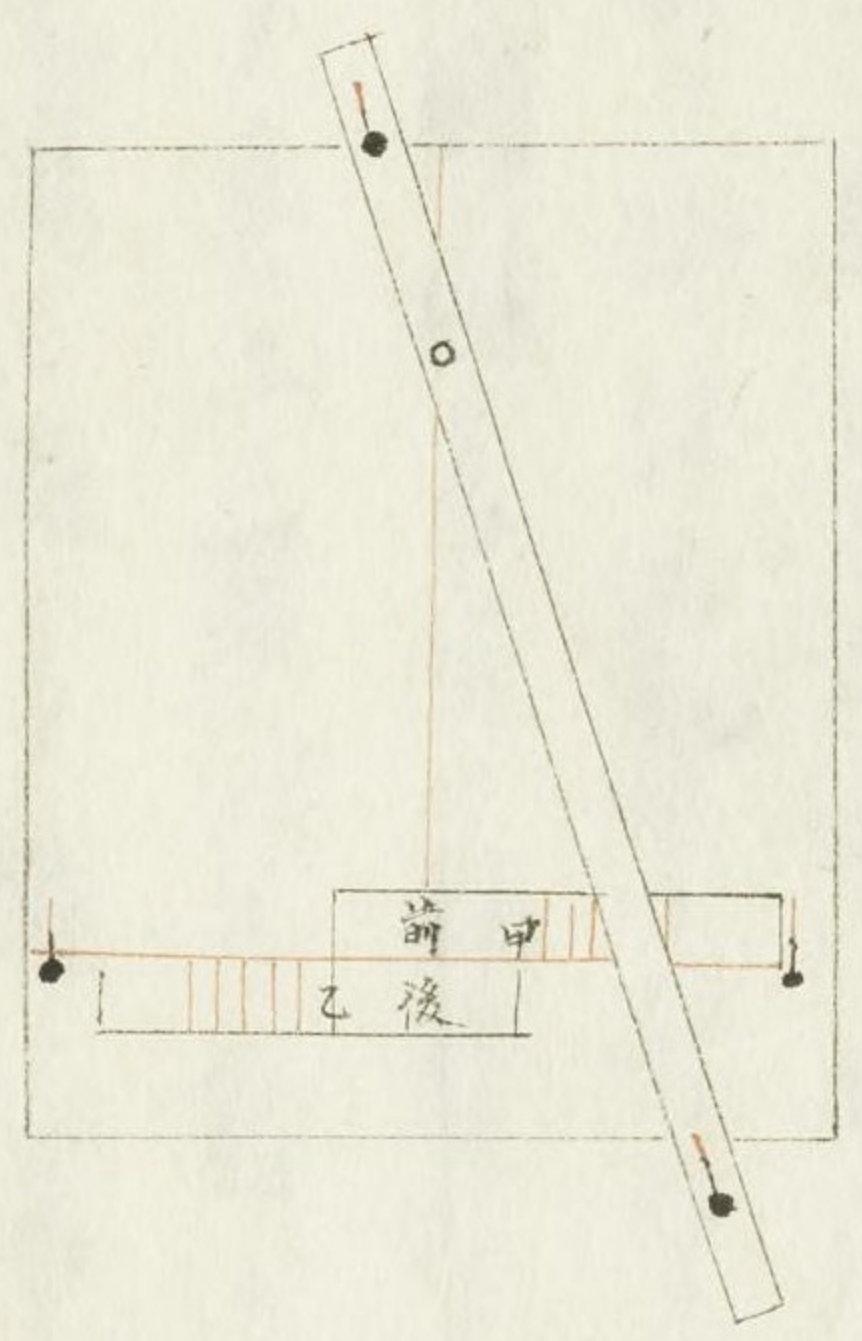
右ノ如ク厚密ヲ以テ刻シ懐中ニシテ
 不時ニ用但シ常ノ見盤ハ狭キ
 故ニ有リ合所ノ板ニテ七一尺余
 四方セ有之ヲ用之上ノ因ノ如ク
 寸數ヲ定メ刻刻ヲ張り定水ヲ
 撒ケ線香等ニ火ヲ点シ見當ニ用
 テ常ノ如ク業ヲ成スル
 ○當坐ノ有合ラ板等ヲ用ルト雖モ
 是則見盤同意成ラ以テ見
 盤刻ト云ナリ

先板ニ真矩ニ真十字ノ墨ヲ引 備テ墨ニ隨テ刻刻ヲ張ニ



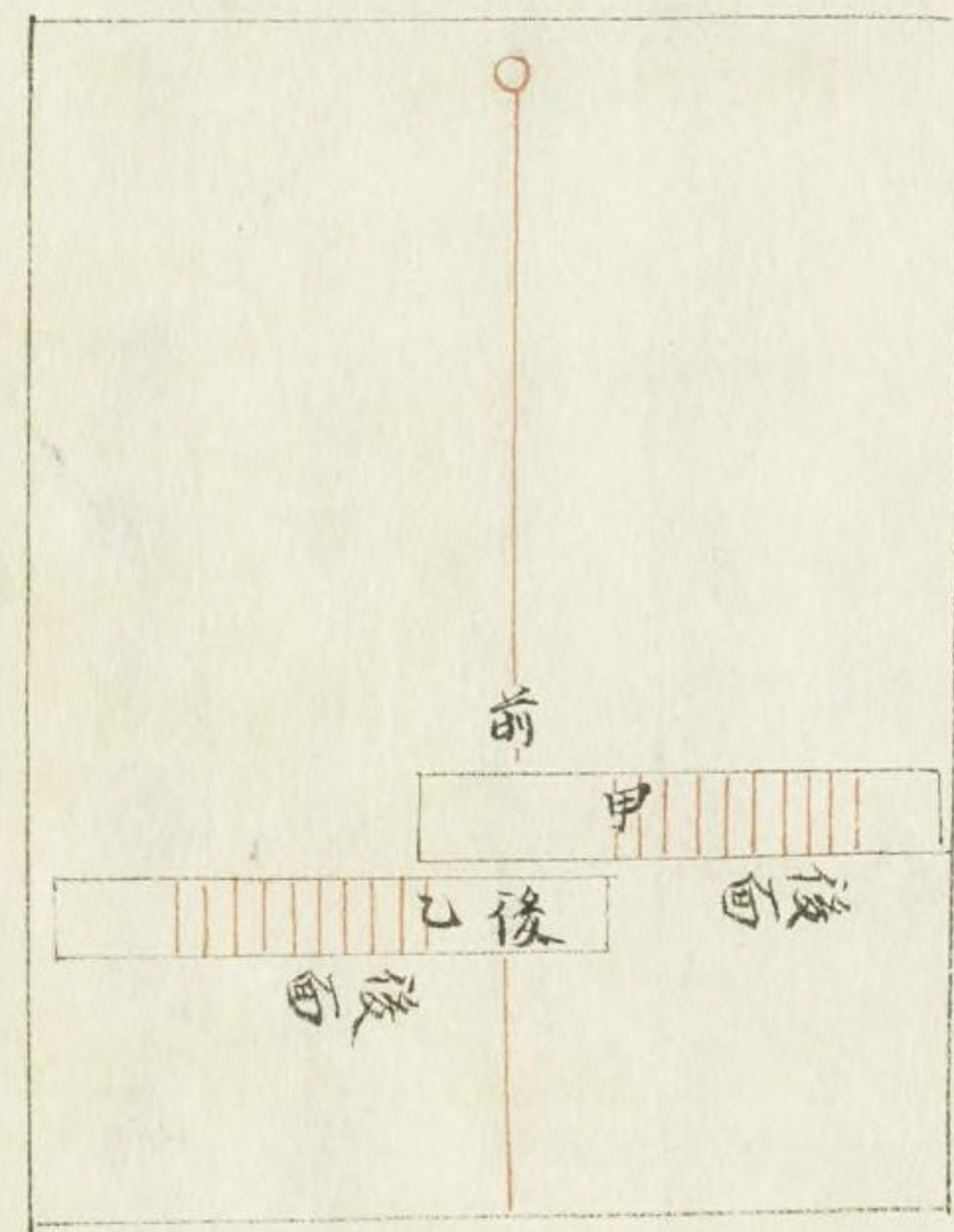


見返之図



見返之図

次ニ定本ヲ撰ケ見返見返ヲ成ス図ニ見ヘク
 但シ右側キナラハ定本ノ右ニ當リタル刻ニヲ用ユマタ
 左側ナラハ定本ノ左ニ當リタル刻ヲ用ユ勿論後面當
 ヲ用ユ



次ニ左圖ノ如ク繼刻ヲ張ナリ甲乙相去間ハ其時ニ用
 定本ノ幅ニ合セテ定ムヘシ假令ハ定本幅一寸ナラハ
 甲乙ノ間ヲモ一寸ニ定ムルナリ





規矩要法口傳私録 七八

良傳一

驗工

是ハ指北ノ正不正ヲ糺ス業ナリ先ツ磁石
ヲ摺附ケタル細針ヲ水ニ浮其浮キ針自ラ
南北ニ向ヒ定ル片別ニ細糸或ハ乱髮等
ヲ弦ニ引キタル弓ヲ真上ニ置浮キ針ニ
准シテヨク弦ヲ見寫シ而シテ後ニ水置

大正五...
...
...





指北ヲ列子ヨキ 劍ヲ又強ニ見馮シ 靜ニ
 指北ヲ廻シ見ニ 劍ノ本未強ノ直クニ不皆
 片ハ其指北正ナリ用ユヘシ 若シ違背アラ
 ハ不正ナリ用ヘカラス 磁石ヲ摺リ移シタル
 針ヲ波上ニ落スリ勿レ 若シ誤テ波上ニ
 着タレハ石氣忽ニ失スルモノナリ





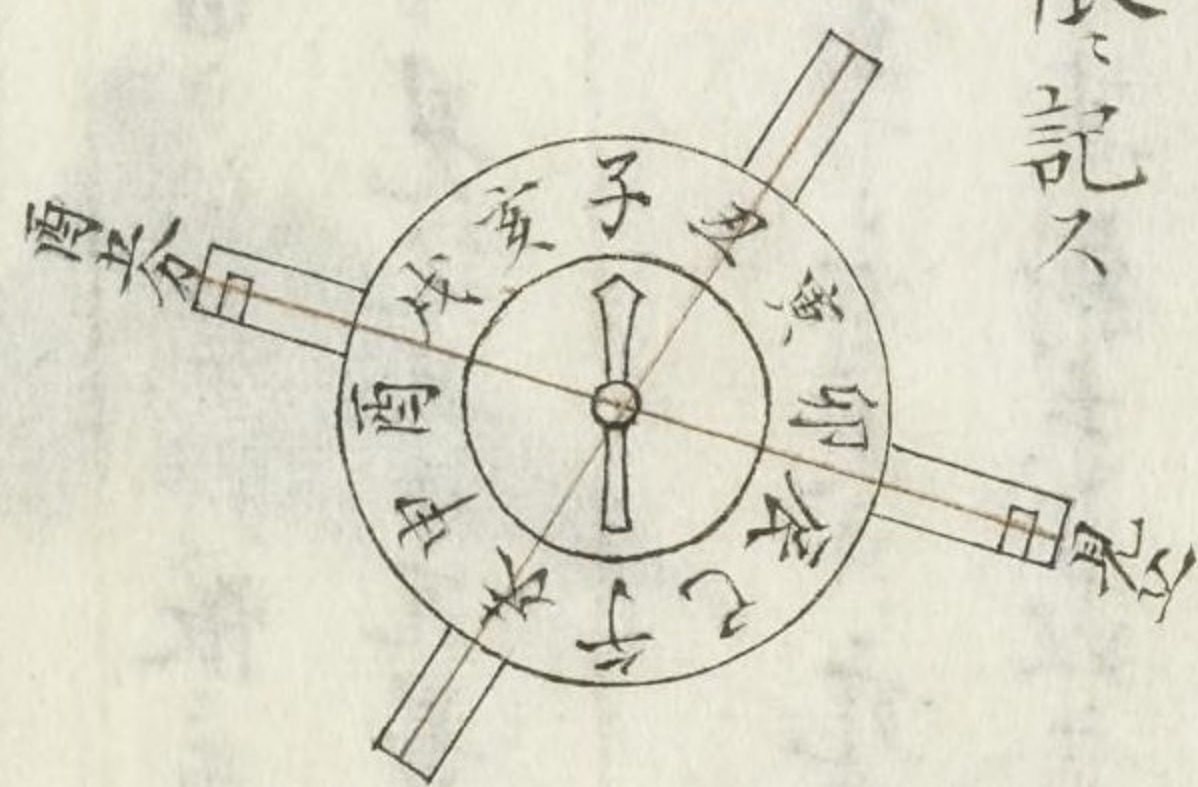
正見

野外等ニ於テ分附ケテ成ス片 劔ヲ子午ニ合
スルニ空眼ヲ用ル故ニ見違フ一多シ先ツ真
上ヨリ見下シ小圓ヲ廻リ 劔ノ末ヲ子一木ヲ子
一合ス一ニ斜ニ見テ合スレハ合フ知クナレ正
不合モノナリ但ニ正見ヲロクニト訓ス

平地分附

是ハ元器小圓并指北ヲ仕入上下ノ折ニ十字

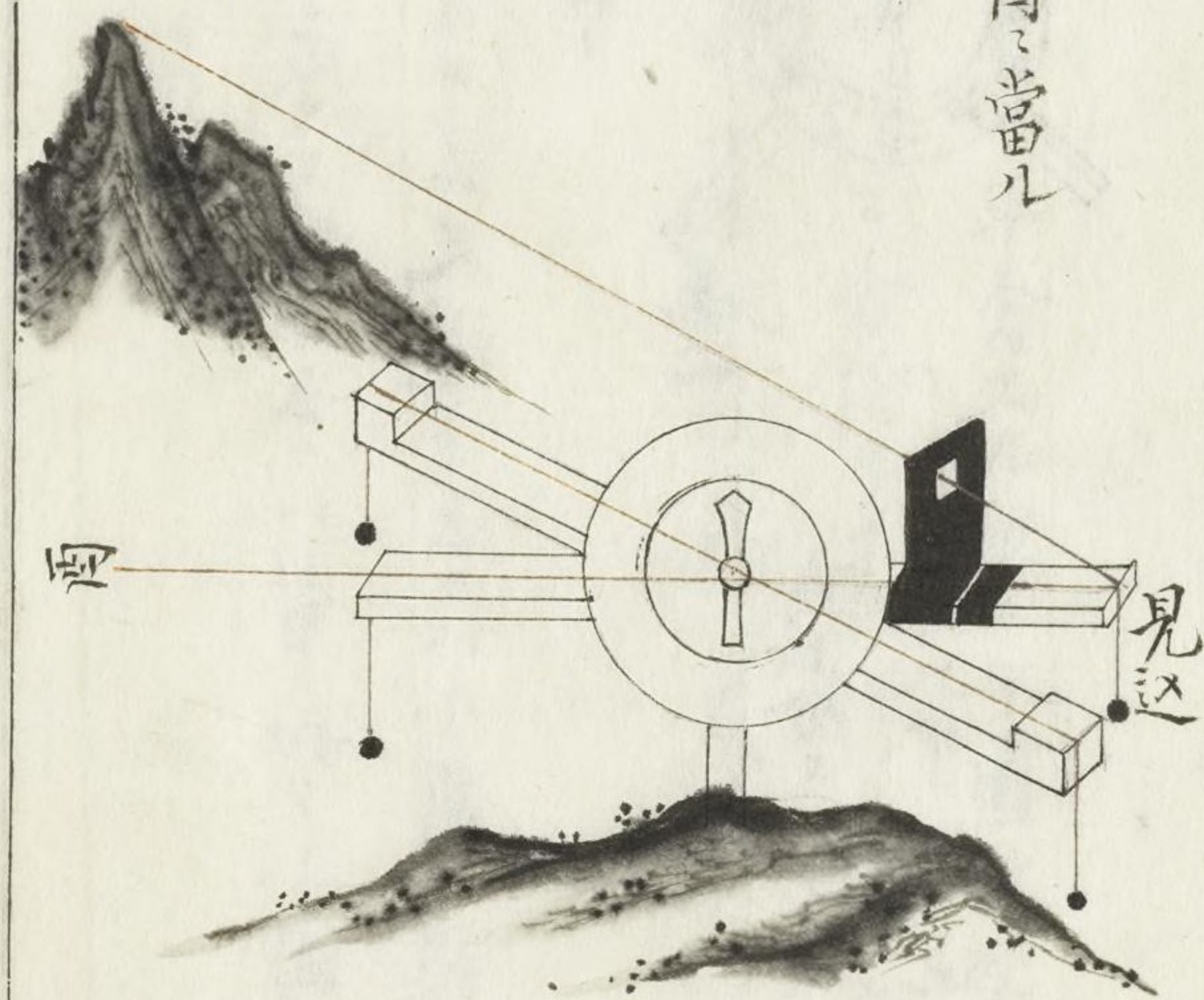
系ヲ張り而シテ下折ノ系ヲ以テ見込ヲ定メ
備テ小圓ヲ廻シ指北ノ劔ヲ子午ニ合シ定ムレハ
見込ノ系自ラ其分厘ニ合フナリ即チ其支ノ
分厘ヲ野帳ニ記ス





山上ノ目的の酒當凡

子



高下分附

右圖ノ如ク當ラハ即チ野帳ニ酒五分ト記スナリ
如此一方分リ見込片片元器ヲ用キ使ヘシ

是ハ目的ニ高下有之片元器ニ矢倉ヲ掛ケ斜
系ヲ掛ケ其斜系ヲ以テ目的ノ勾配ニ隨テ
見込ニ元器ヲ居正而シテ平地分附ノ如ク
分厘ヲ記スナリ

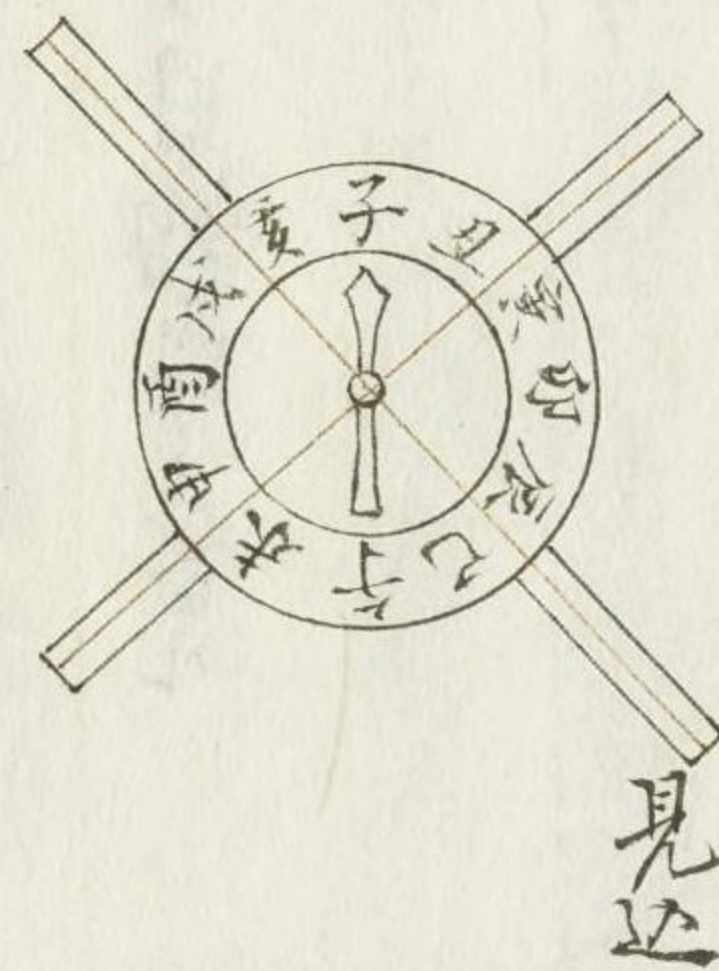
表ノ數面圖云





順逆

指北ノ分附ヲ成スノ順ト云フハ常ノ如ク小圓ノ
前ノ分ヲ附ルヲ云又逆ト云フハ小圓ノ後ノ
分ヲ附ルヲ云フ



見込

戌丑分ヲ記ス順
辰巳分ヲ記ス逆

振り分

是又指北ノ塵ヲ平分スル術ナリ圖取等ヲ
成スニ一編ノ順ノノニ分附ヲナス行ク片ハ塵
積リテ差アルモノナリ故ニ所ニ於テ度量ニテ振
分ヲ成スニ

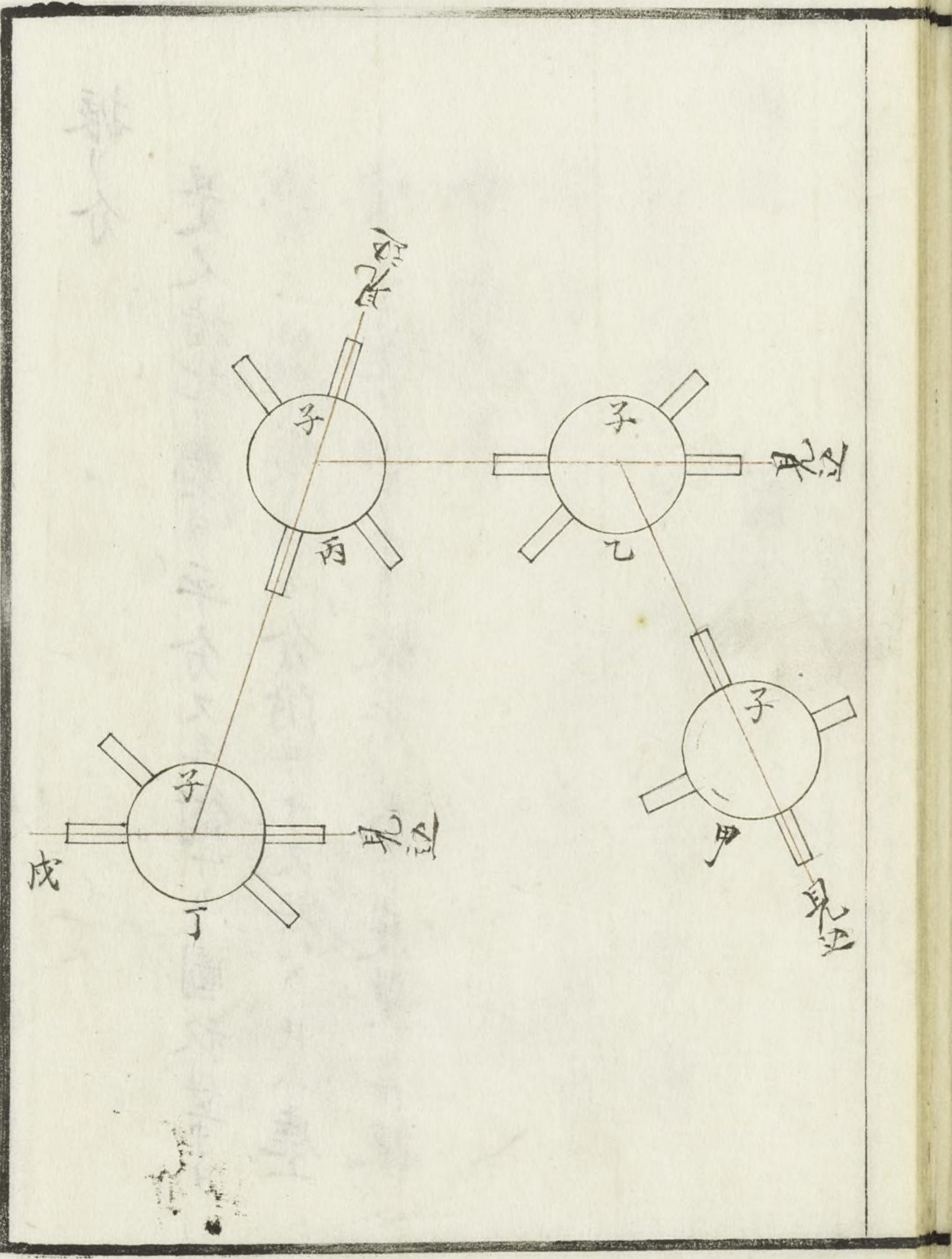
圖云





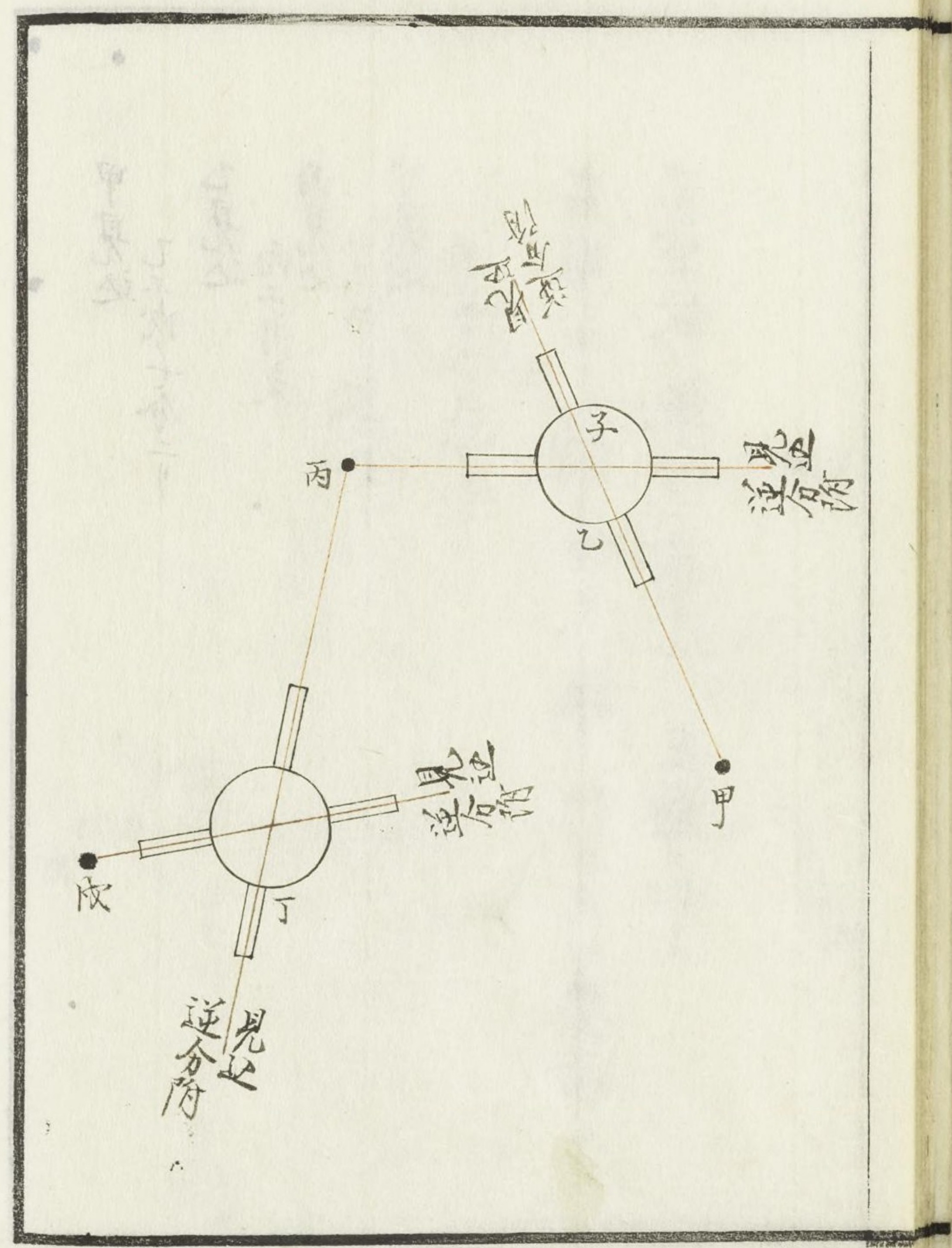
甲見込
 乙見込
 丙見込
 丁見込
 戊見込

右圖ノ如ク一編ノ順支ニ振リ行ク片ハ塵積ナ
 不宣故ニ振分ニ成ス片ハ左圖ノ如シ





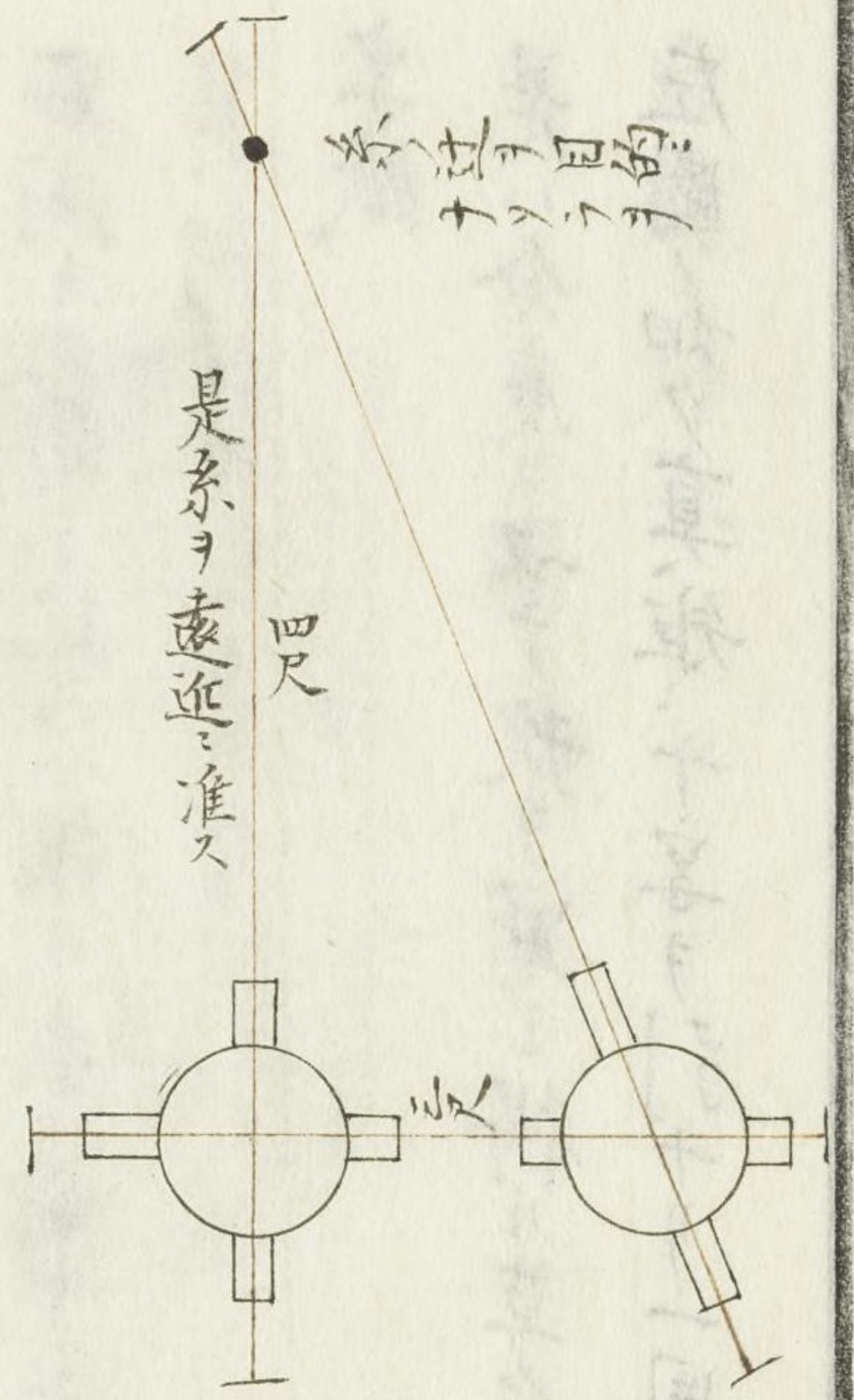
前圖、如ク甲ニ元器ヲ居テ乙ヲ見込ヘキヲ後
 圖ノ如ク相返シテ乙ニ元器ヲ居テ甲ヲ見込ニ
 逆ノ分ヲ見シハ成ノ七分ニ厘當ルナリ是甲ノ
 場ヨリ順ニ分附シタルト同事也
 又丁ヨリ丙ヲ見込ニ業同意ナリ
 乎町
 是ハ准繩ノ傳ノ最初ナリ又ハ准繩ト云ハ
 真術ヲ今成スニハ非ス席中ニ於テ乎町ノ形





糸ヲ張り元罫ニ小圓并指北ヲ仕入張り糸ニ
 准シテ分附ヲ成シ野帳ノ式ヲ定メ而後ニ分
 度曲尺ヲ以テ紙上ニ寫ツシ真術ニ擬シテ子
 笈ニ示ス傳也其外カ斜平直指序風置
 扇等各同断ナリ

圖云



右圖ノ如ク糸ヲ張り各分附ヲ見テ野帳ヲ記ス
 野帳ノ式

左ノ如ク記スヘシ





見込子支的

用卯支

見込亥ノ五りの

右用キニ間ト記スハ張り糸ノ用キニ尺ヲ假リ

真術ニナソラニタルナリ

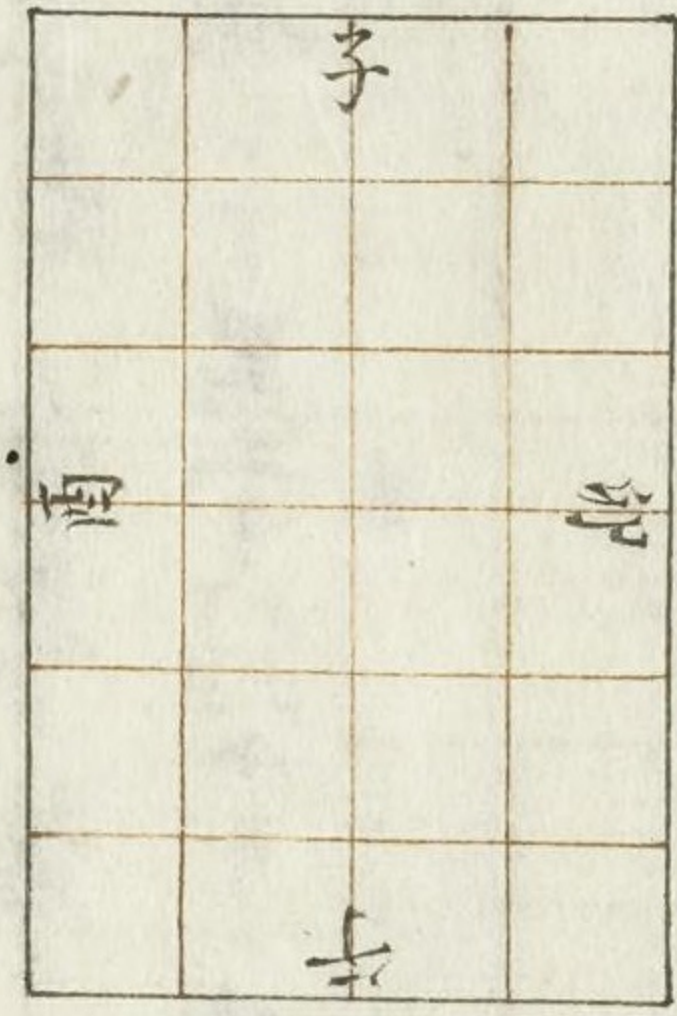
十字紙

是ハ分度ヲ以テ形ヲ寫シ得ル草紙ナリ先ツ

左圖ノ如ク真矩ニ十字ヲ引ナリ一圍ニ四五分

白卦引ッ

圖云



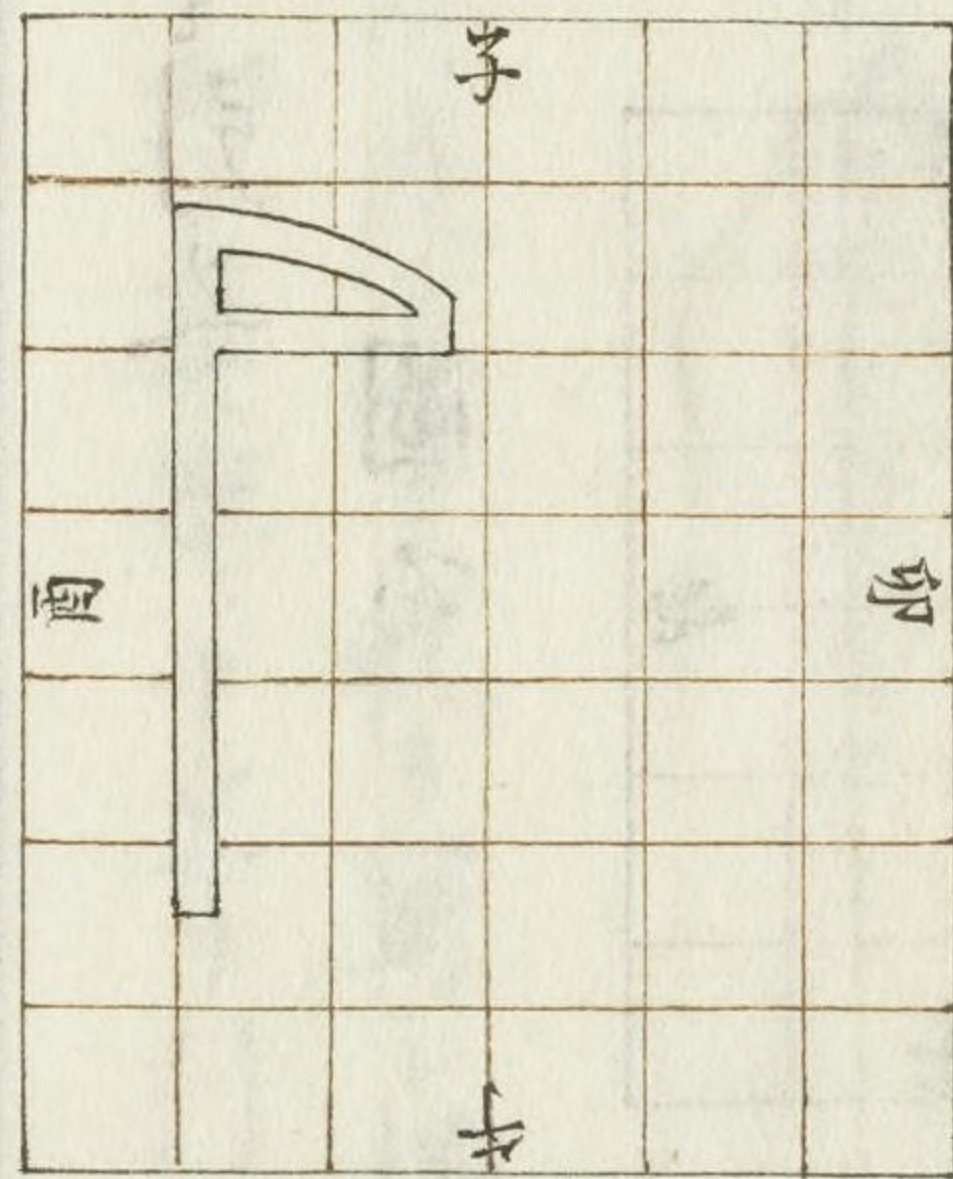
方角附

右十字紙ニ子午卯酉ノ四字對書スルヲ云

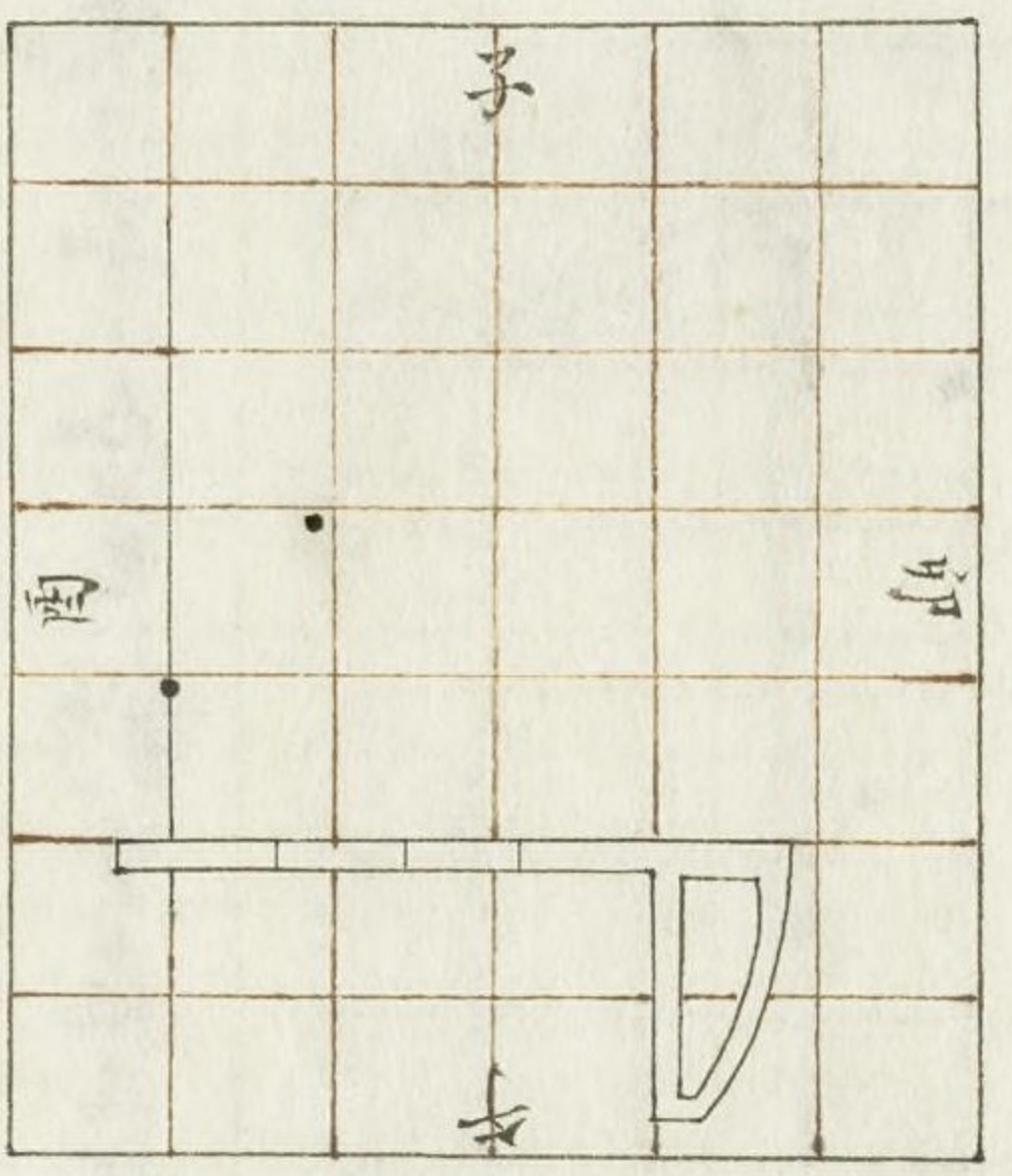




分度曲尺ヲ振ル式左ニ解ス
 右記ス所ノ野帳ニ隨テ分度ヲ振ルナリ先左
 圖ノ如ク子卦ニ分度ヲ當テ針ヲ以テ止メ即チ
 柄矩ニ准シテ墨ヲ引ナリ是レ見込ノ取也

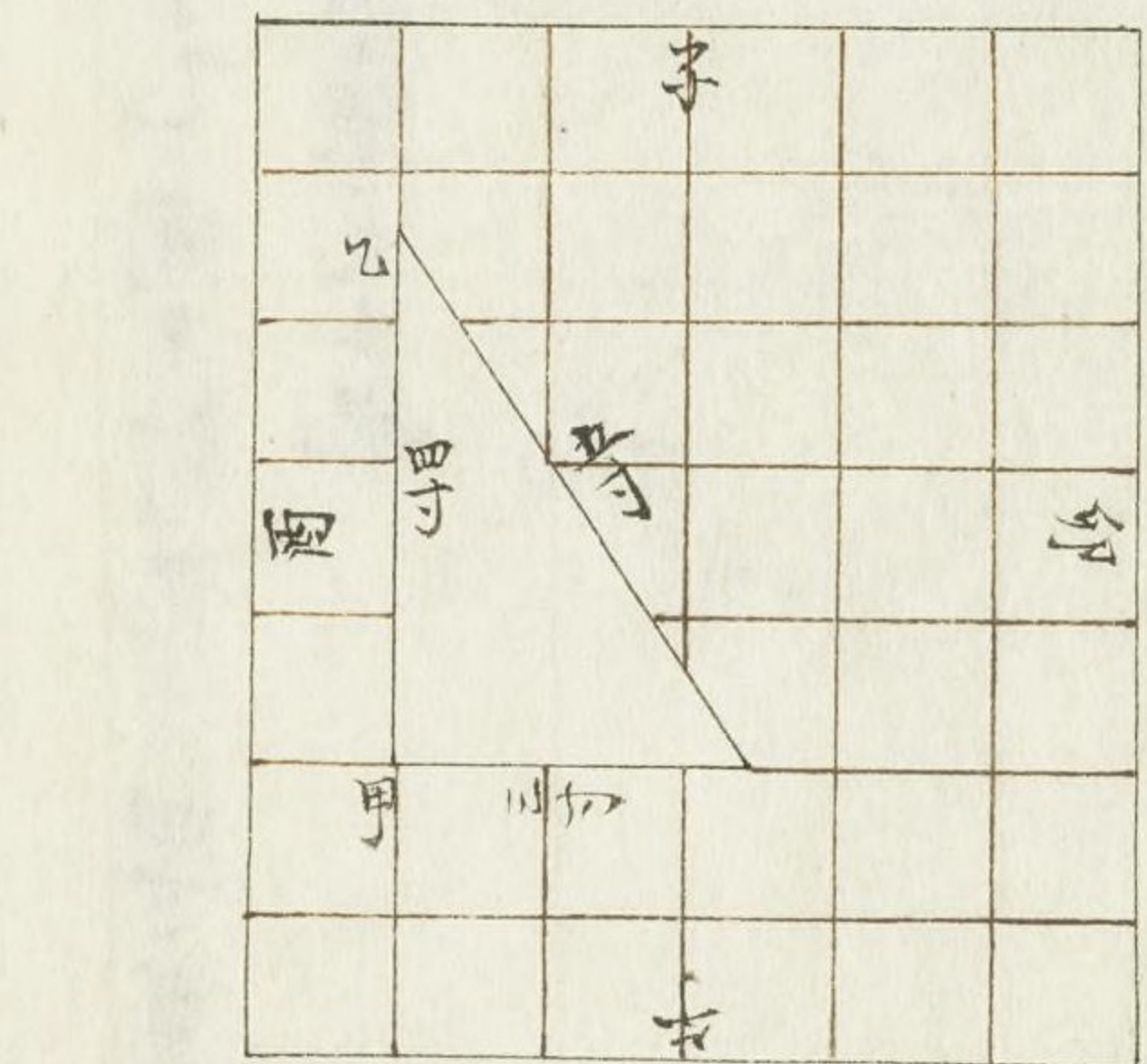
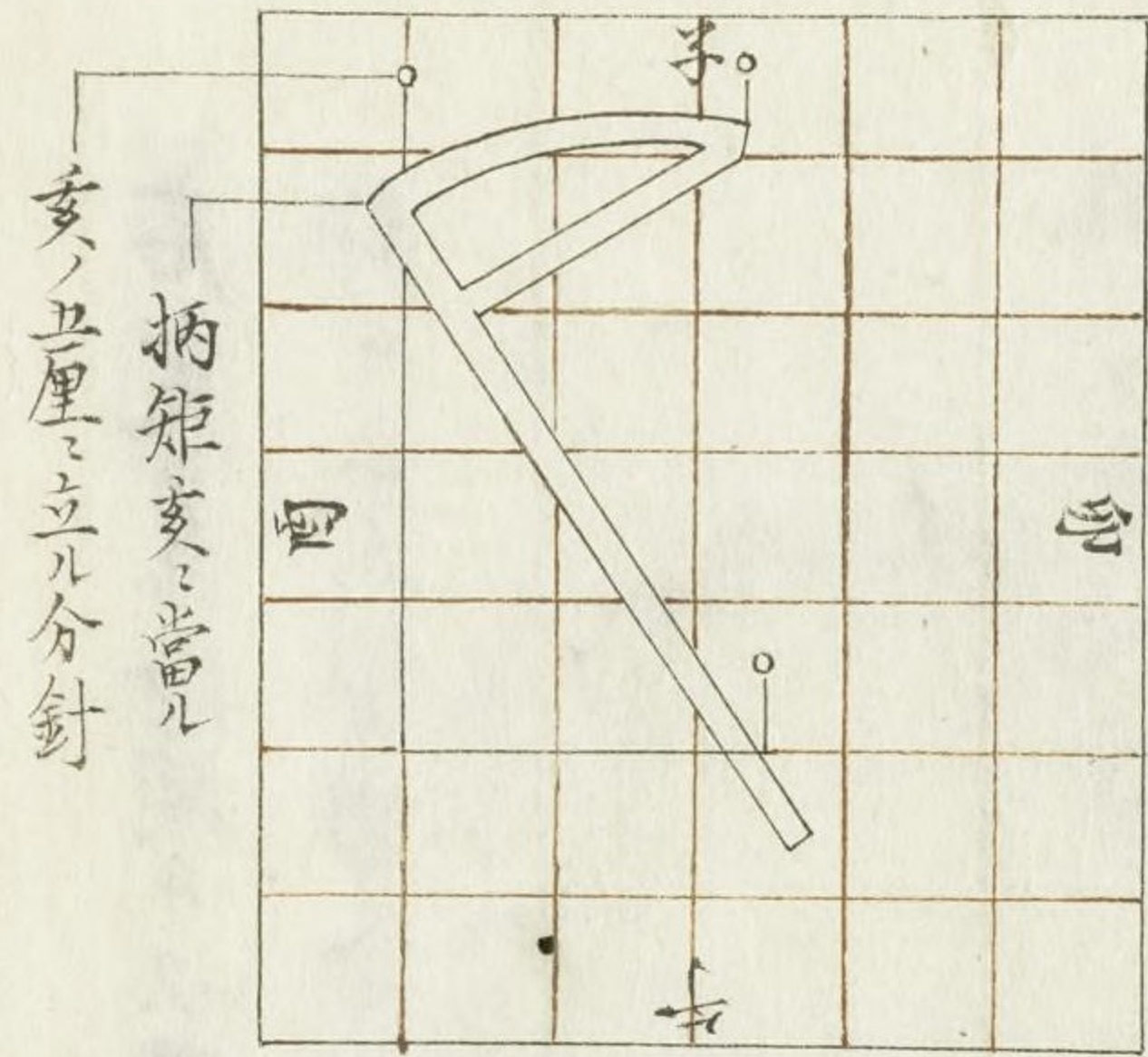


次ニ分度ヲ廻シ左圖ノ如ク卯ニ合也墨ヲ二寸
 引ナリ是レ開ノ取也但シ一寸分ニ間ニ定ム

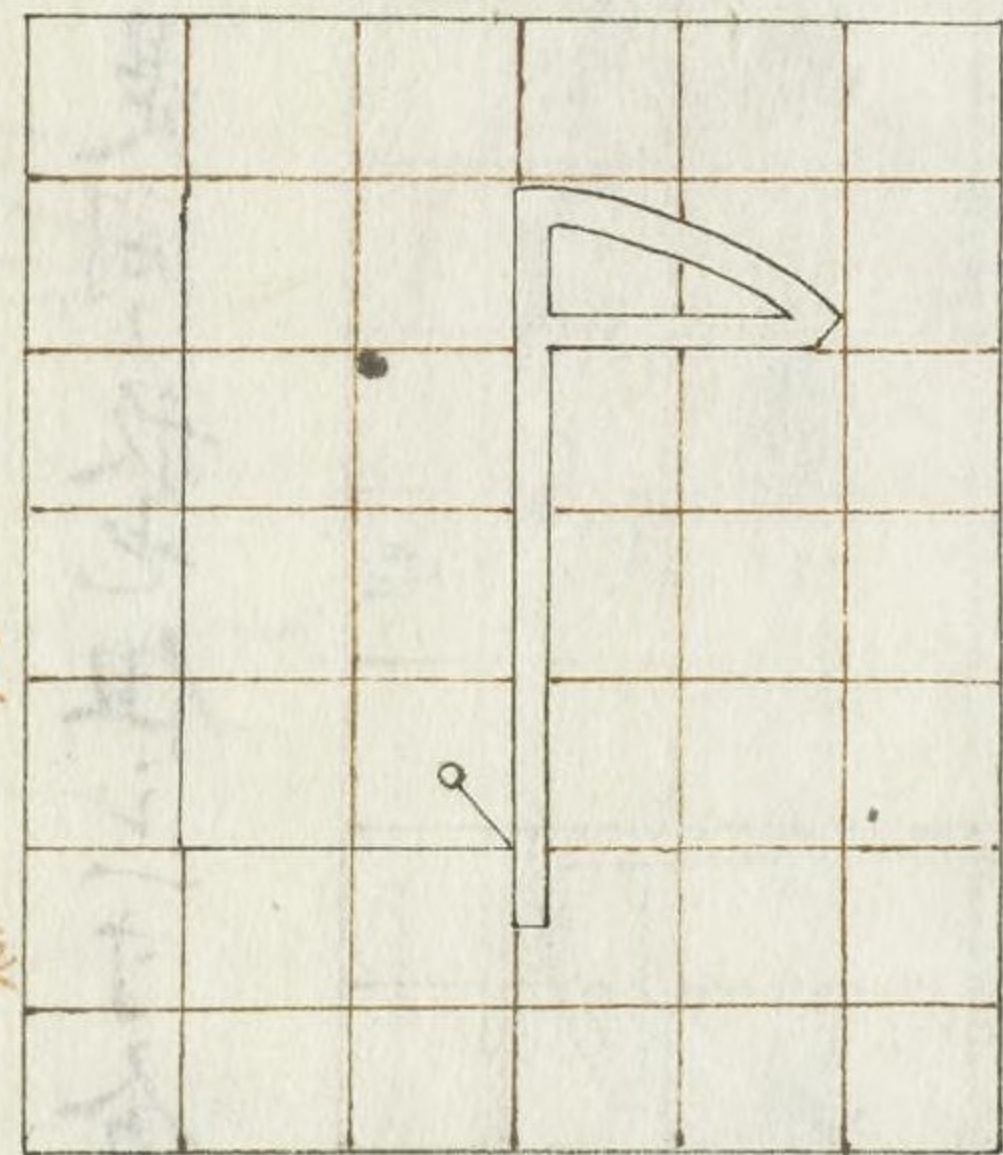


次ニ二寸ノ墨ヲ止リ一分度ヲ移シ柄針ヲテ留メ





七八柄矩亥之當儿備五厘ノ所ニ合針ヲ立テ
柄矩ヲ合セ合和所ニ墨ヲ引ナリ



次ニ子ノ方ニ立テ凡分針ヲ限リ分度ヲ逆ニ廻

而見返ノ墨ヲ得ト欲ル片亥ハ子ノ前ナラ故
先分度ヲ子ニ合セ針ヲ立ルナリ左圖ノ如シ





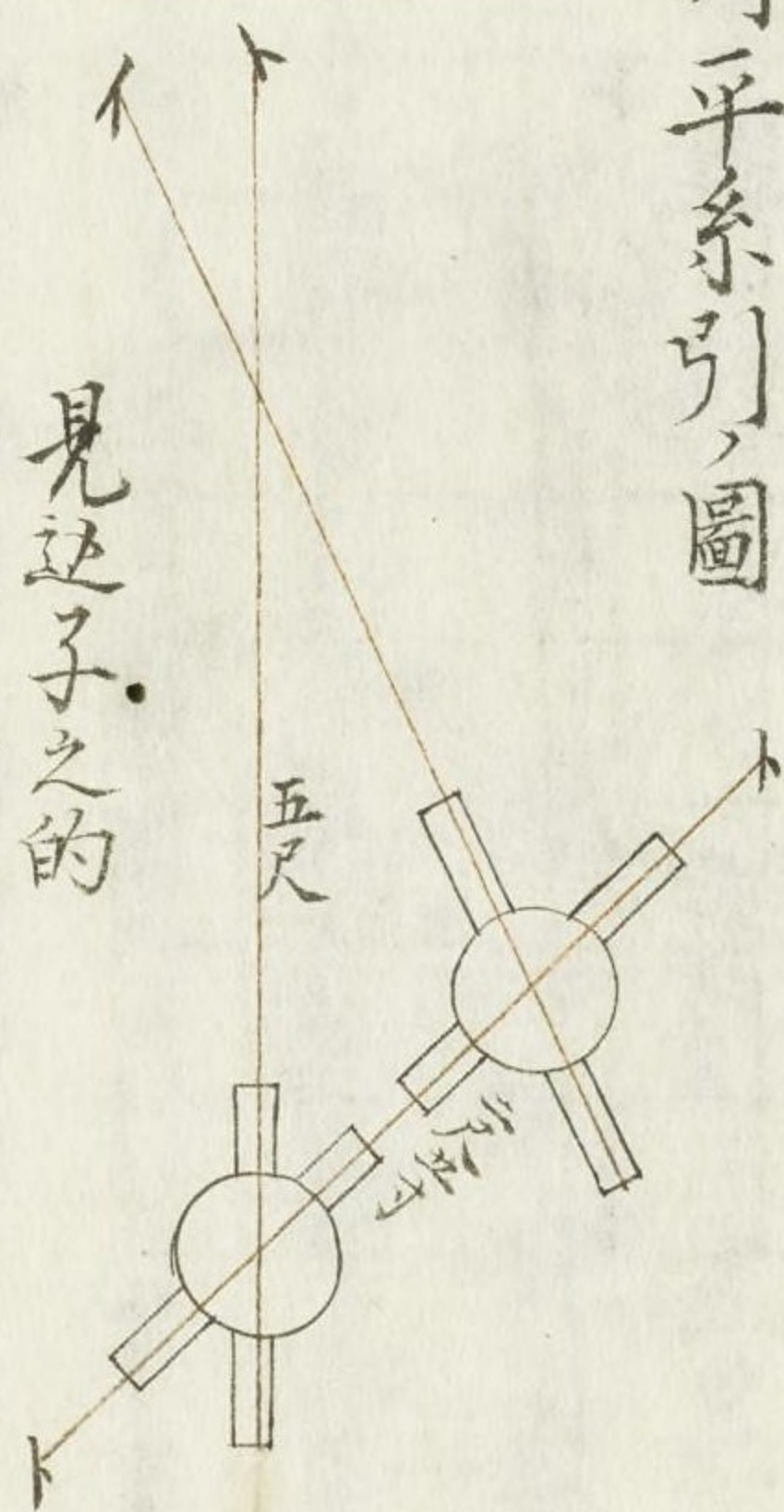
右定凡分間ヲ以甲乙之間ヲ計見レハ四寸有之
即チ系引キ四尺ニ相應スル也

此等ノ合ノハ凡ソ凡ソノ計見レハ四寸有之
即チ系引キ四尺ニ相應スル也

規矩要法條目口傳私録

良傳二

斜平系引ノ圖



見込子之的

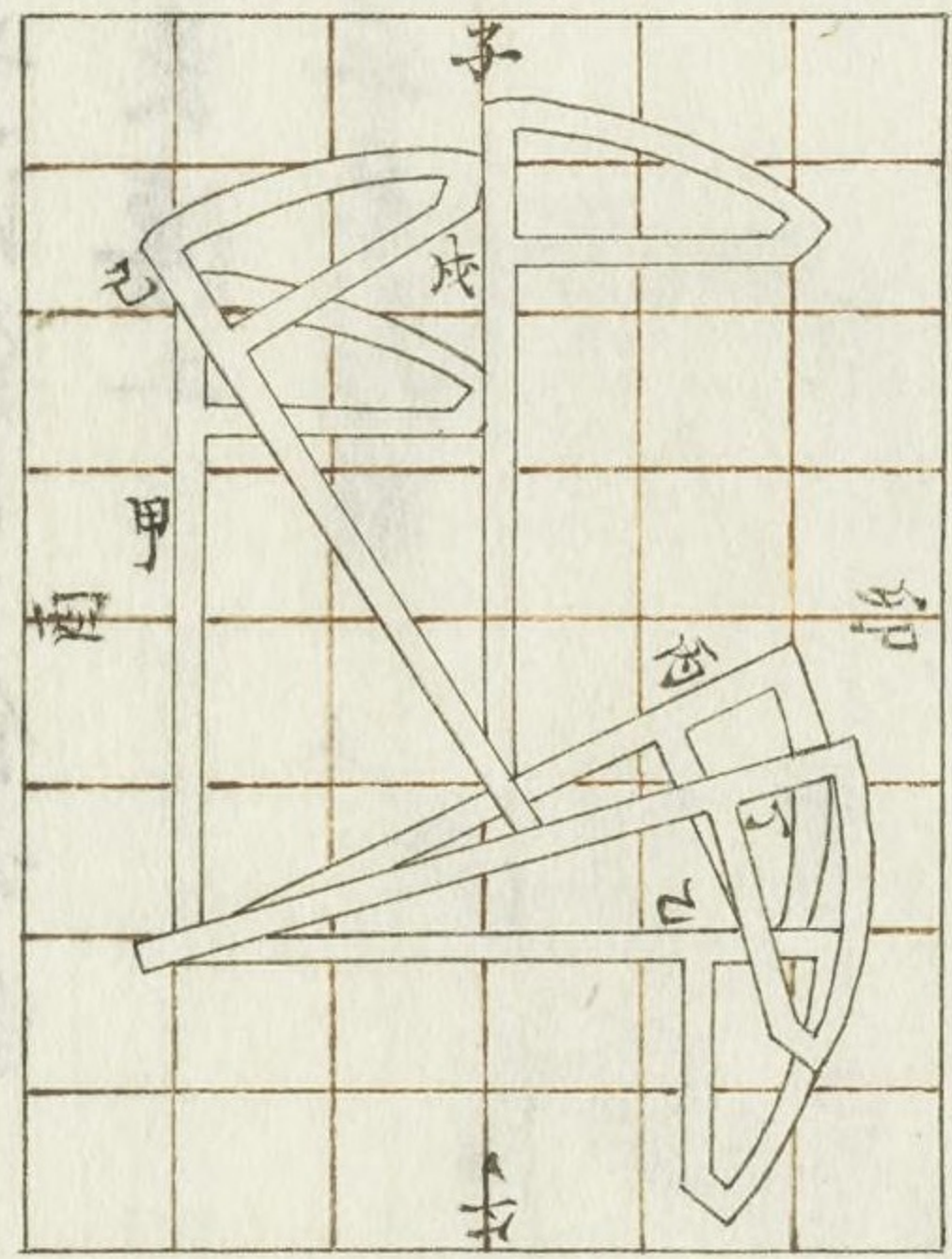
開寅ノ二分二間半

見込亥支的





分度振ル式平町ト意同シ故ニ分次ノ圖ヲ
略シ只兩圖ニ約テ左ニ布クナリ

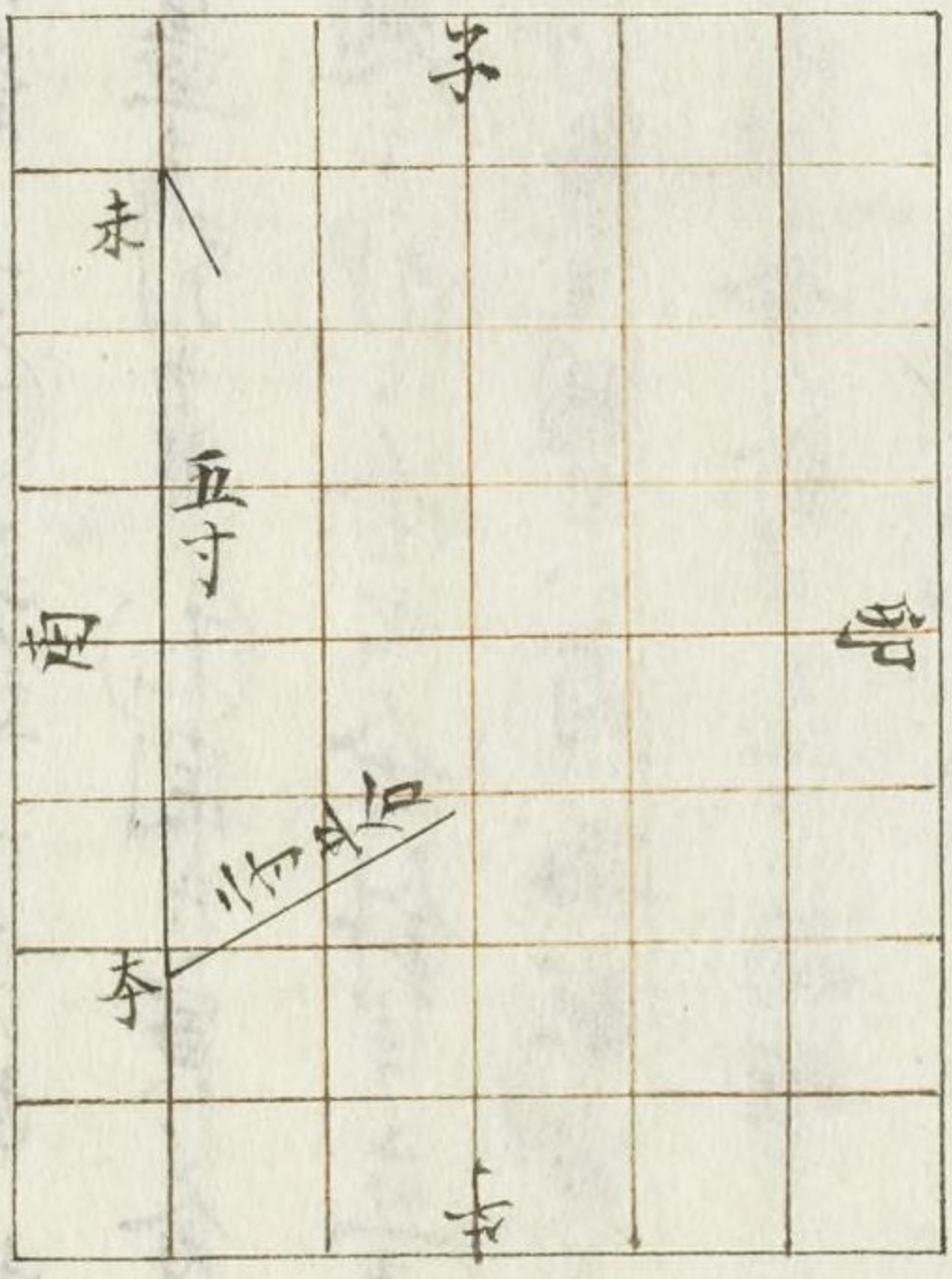


右圖解ニ云 甲 見込子ナル故ニ柄矩ヲ先子ニ
合テ墨ヲ引ナリ 乙 用キ寅ノ分附ナル故ニ分
度ヲ廻シ卯ニ合セ分針ヲ立其分針ヲ限リ
逆ニ分度ヲ廻セハ 丙 柄矩寅ニ當ル 丁 備テ
二分ノ所ニ分針ヲ立テ柄矩ヲ合セ一寸一間ノ
分間ナラハ二寸五分墨ヲ引キ其墨止リ一分
度ヲ移シ 戊 備テ見返シ亥ナル故ニ先柄矩
ヲ子ニ合セテ分針ヲ立テ其針ヲ限リ分度

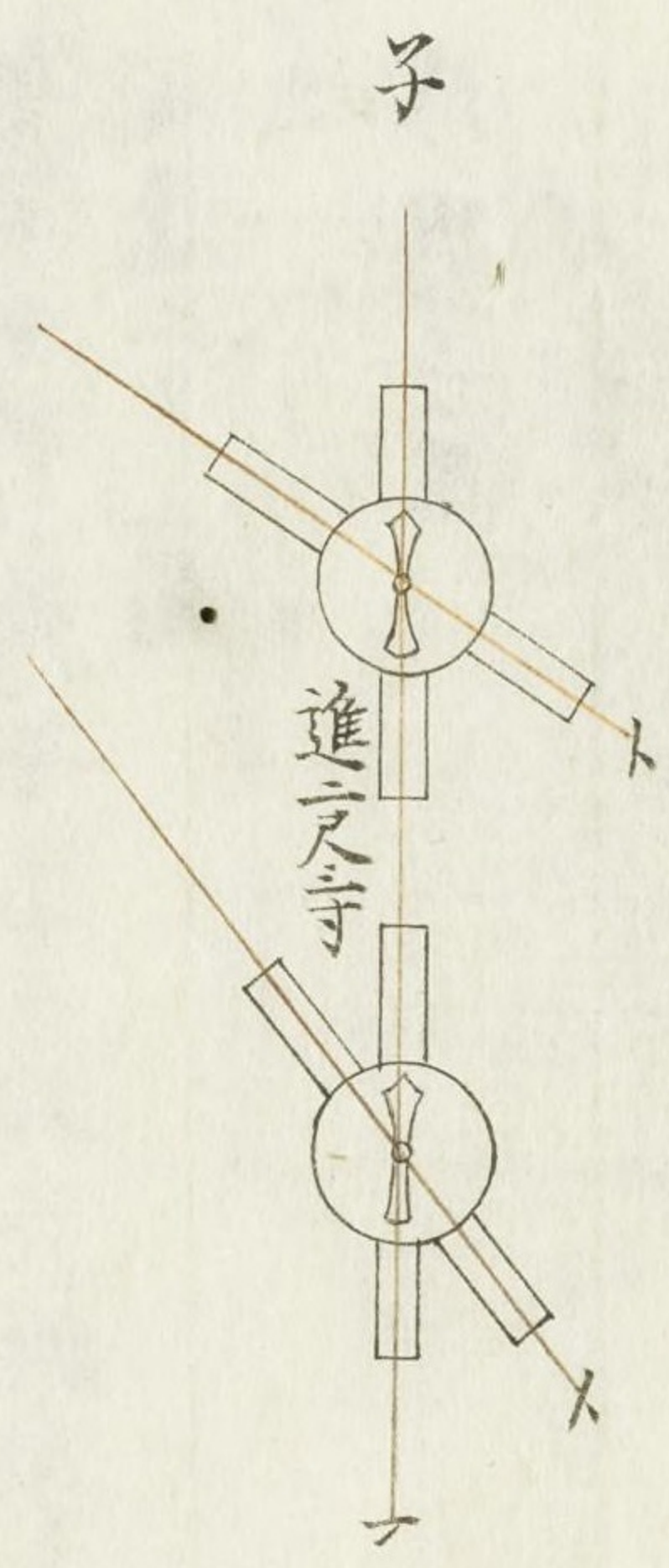




ヲ逆ニ廻セハ己柄矩亥ニ當ルナリ即チ合和ノ所墨ヲ少シ引ナリ



直指系引ノ圖
右定タル分間ヲ以テ本末ノ間ヲ計リテ見
レ六寸有之是系引五尺ニ相應スルナリ

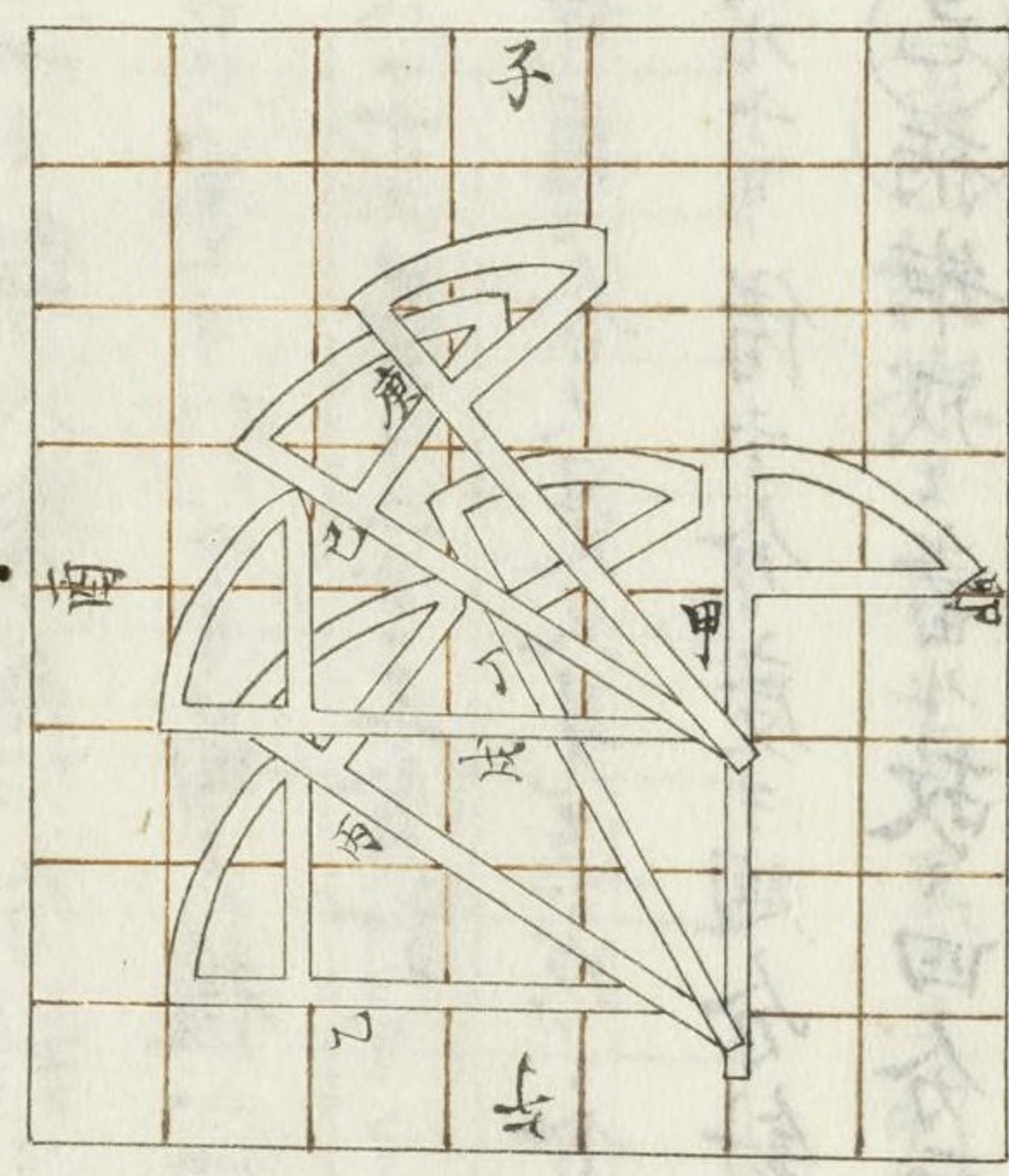


見込通ノ系長ヲ
六尺九寸
見込





本目的子支的
假目的戌八分五的
開進二十三間
見返
戌四分二厘



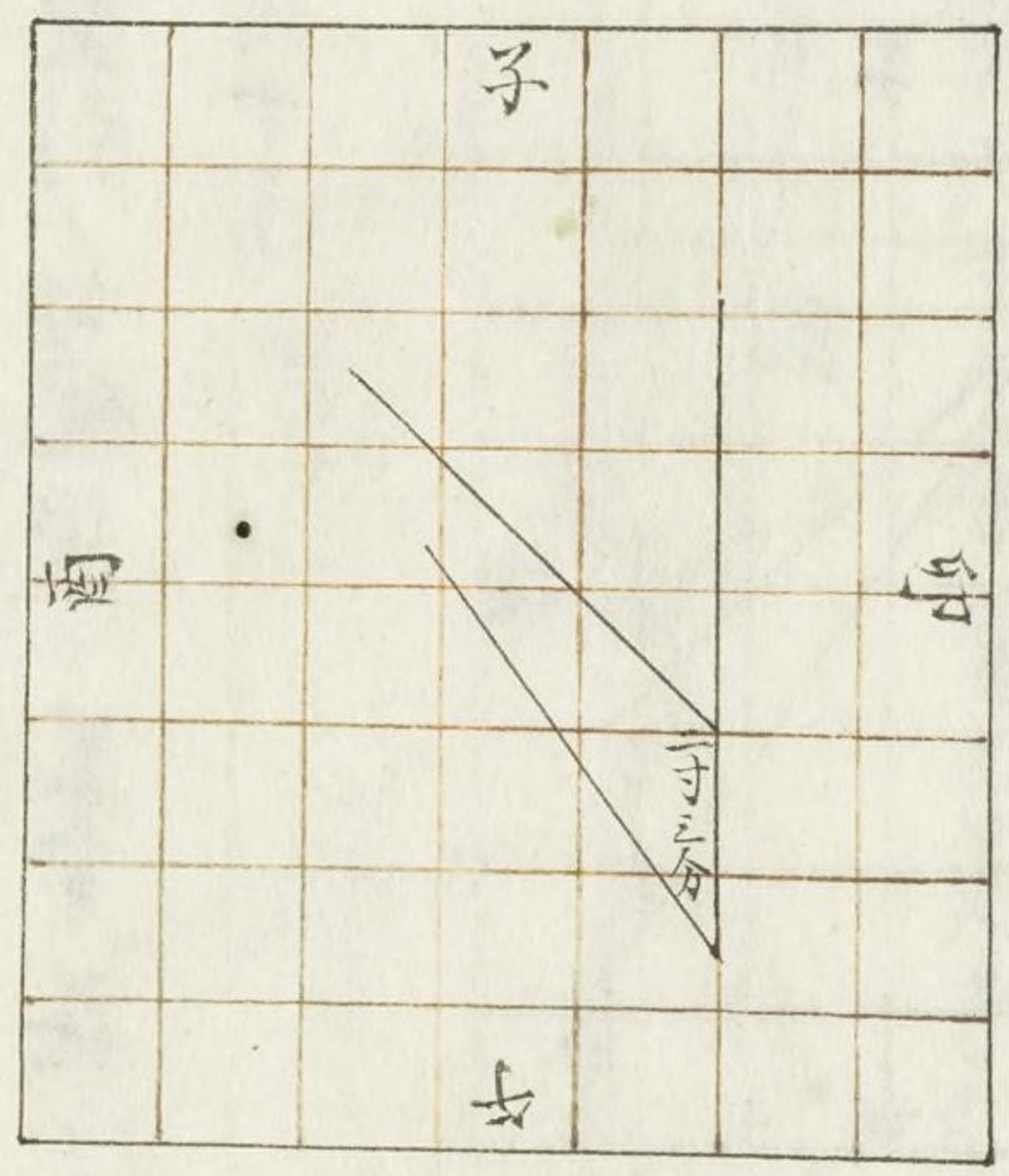
右圖解之云甲見返子ナレ故先柄矩子子合也
墨引引乙借六分度子廻之酉合入是ハ





見込之戌ノ分附ナル故ニ先酉ニ合スルナリ備
 分針ヲ限リ分度ヲ煩ニ廻セハ(丙)柄矩戌ニ
 當ルナリ即ハ分ノ所ニ分針ヲ立テ(丁)柄矩
 ヲ合セ墨ヲ引ナリ而シテ後一寸十間ノ分間
 ナラハ子ノ墨ヲ二寸三分計リテ分度ヲ移シ
 (戊)先酉ニ合ス是又見込戌ノ分附ナル故ニ酉ニ
 合スルナリ備テ分度ヲ廻分針ヲ限リ煩ニ廻
 セハ(己)柄矩戌ニ當ル故ニ四分厘ノ所ニ分針ヲ

立テ(庚)柄矩ヲ合セテ墨ヲ引クナリ

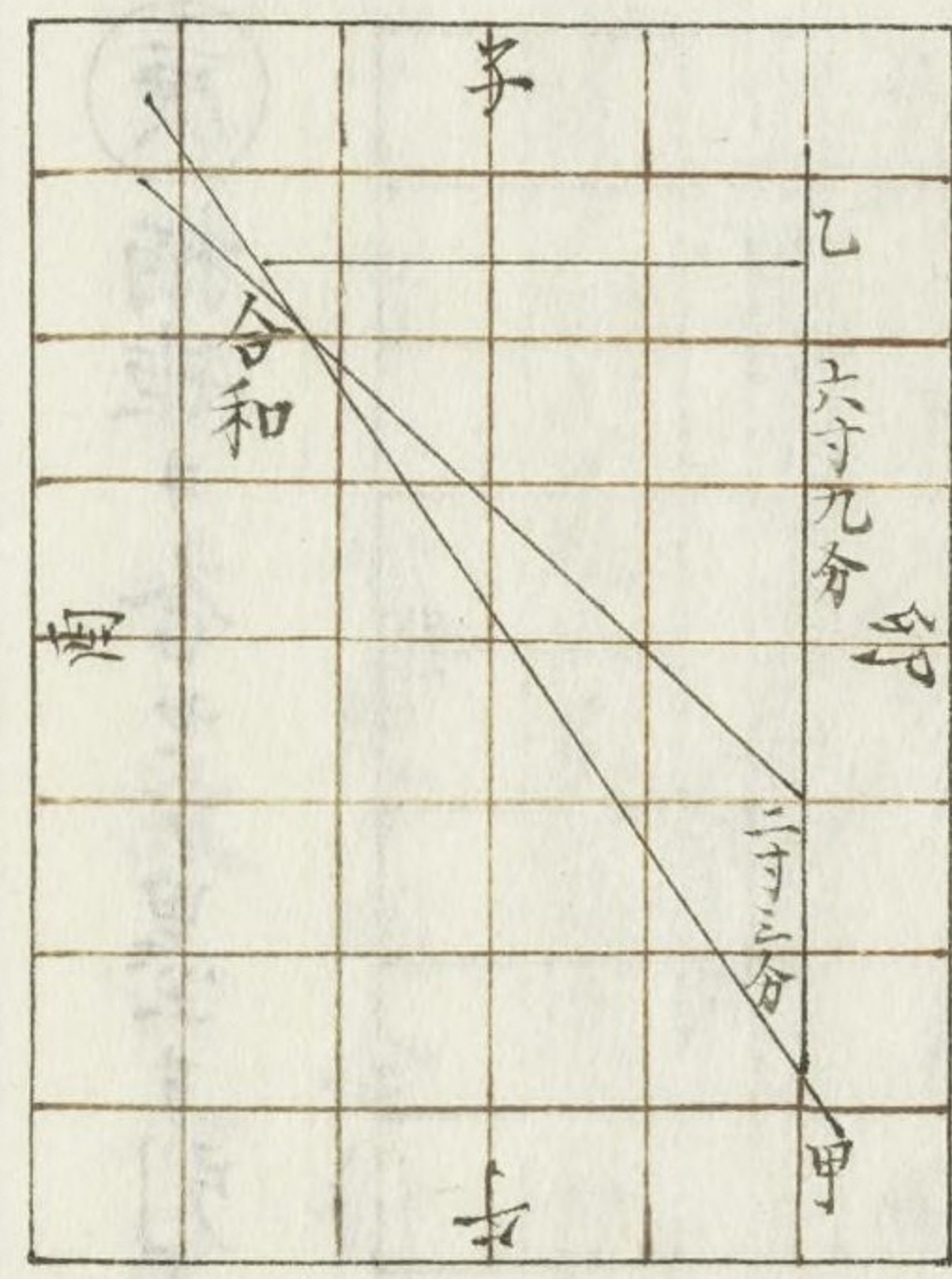


右圖ノ如ク墨ヲ合和セサルナリハ分度ノ柄矩限リ

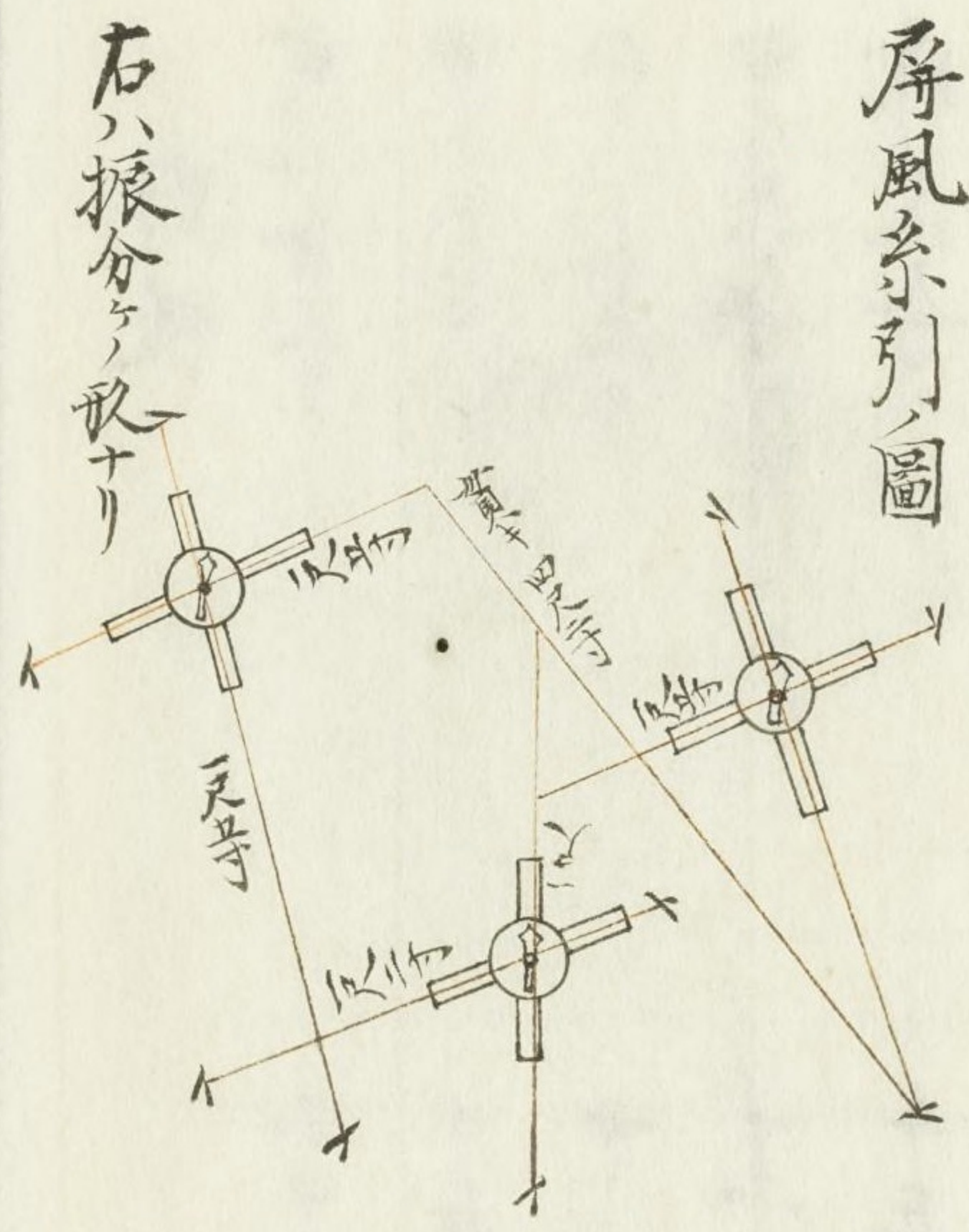


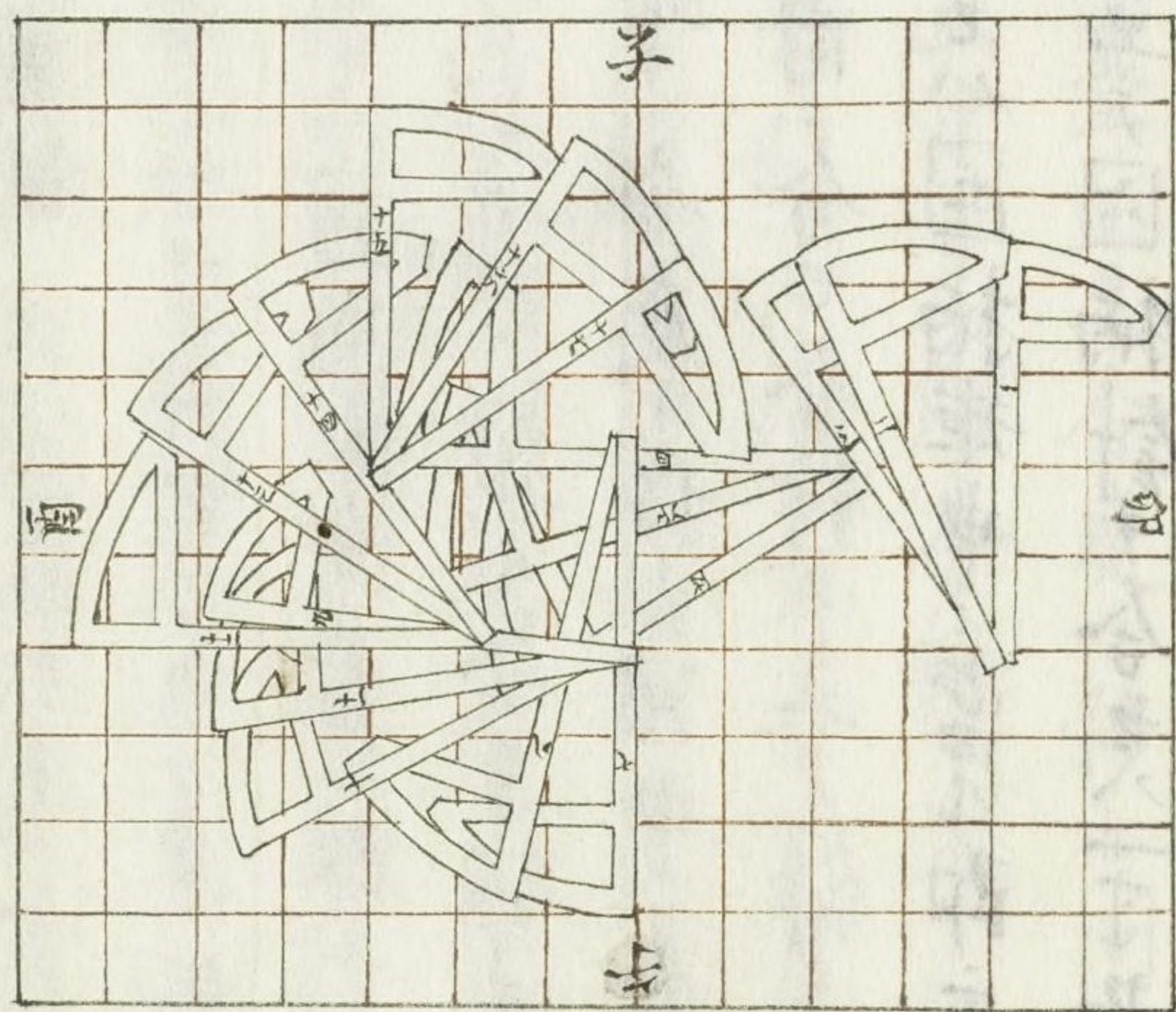


アリテ合和所及サル故ナリ若シ如此ノ片ハ
 各墨引ノ勾配隨テ墨ヲ益シ出テ自ラ合和
 ヲ得ルナリ



合和テ所ヨリ真矩ニ乙引渡シテ後ニ甲
 乙ノ間夕六寸九分有之是系引ノ應ス
 屏風系引ノ圖





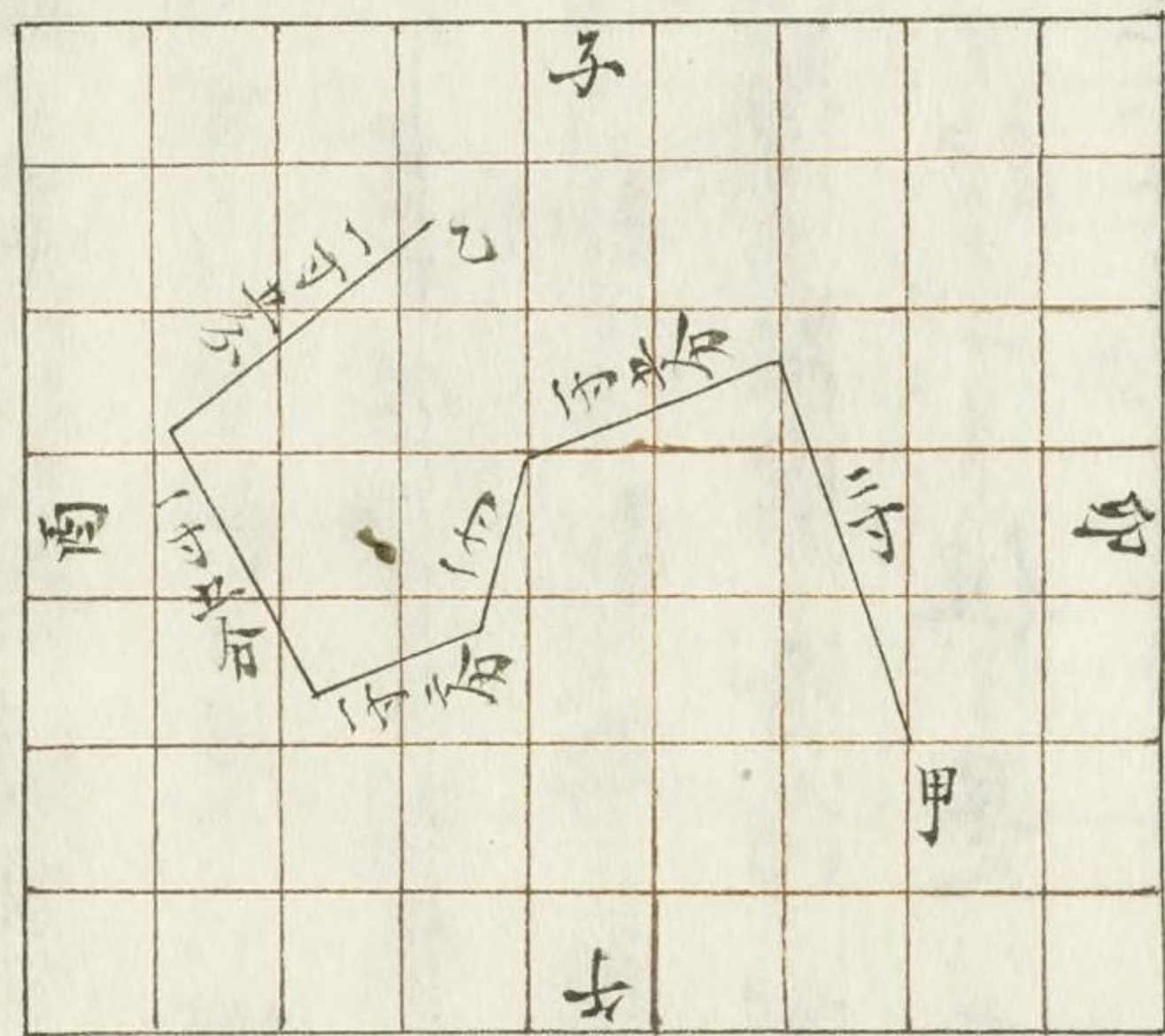
野帳

亥ノ一分三リ	二十間
申ノ五分一	十五間
午ノ三分一	十間
申ノ六分九リ	十二間
戌ノ八分一	十五間
丑ノ五分八リ	十五間
双上	



右圖解云曰最初亥ノ分附ナレ故先柄矩
ヲ子ニ合セ分針ヲ立テ其針限り分度ヲ逆
ニ廻セ八目柄矩交ニ當ル即十一分ニ所ニ分
針ヲ立テ目柄矩ヲ合セ二寸墨ヲ引ナリ儲墨
ノ止リ一分度ヲ移レ回申ノ分附ナル故柄矩
ヲ酉ニ合セ分針ヲ立テ針ヲ限り分度ヲ逆
ニ廻セ八目柄矩申ニ當ル即十五分ノ所ニ分針
ヲ立テ目柄矩ヲ合セ八寸五分墨ヲ引ナリ

儲墨ヲ止リ一分度ヲ移レ目柄矩ヲ午ニ合セ
目三分ニ所ニ分針ヲ立テ柄矩ヲ合セ二寸
墨ヲ引ナリ儲墨ヲ止リ一分度ヲ移レ目申
ノ分附ナル故先柄矩ヲ酉ニ合セ分針ヲ立テ
其針ヲ限り分度ヲ逆ニ廻セ八目柄矩申ニ
當ル即十六分九リノ所ニ分針ヲ立テ目柄矩
ヲ合セ二寸二分墨ヲ引ナリ儲墨ヲ止リ一分
度ヲ移レ目戌ノ分附故先柄矩ヲ酉ニ合セ



右分間八分二間ナリ

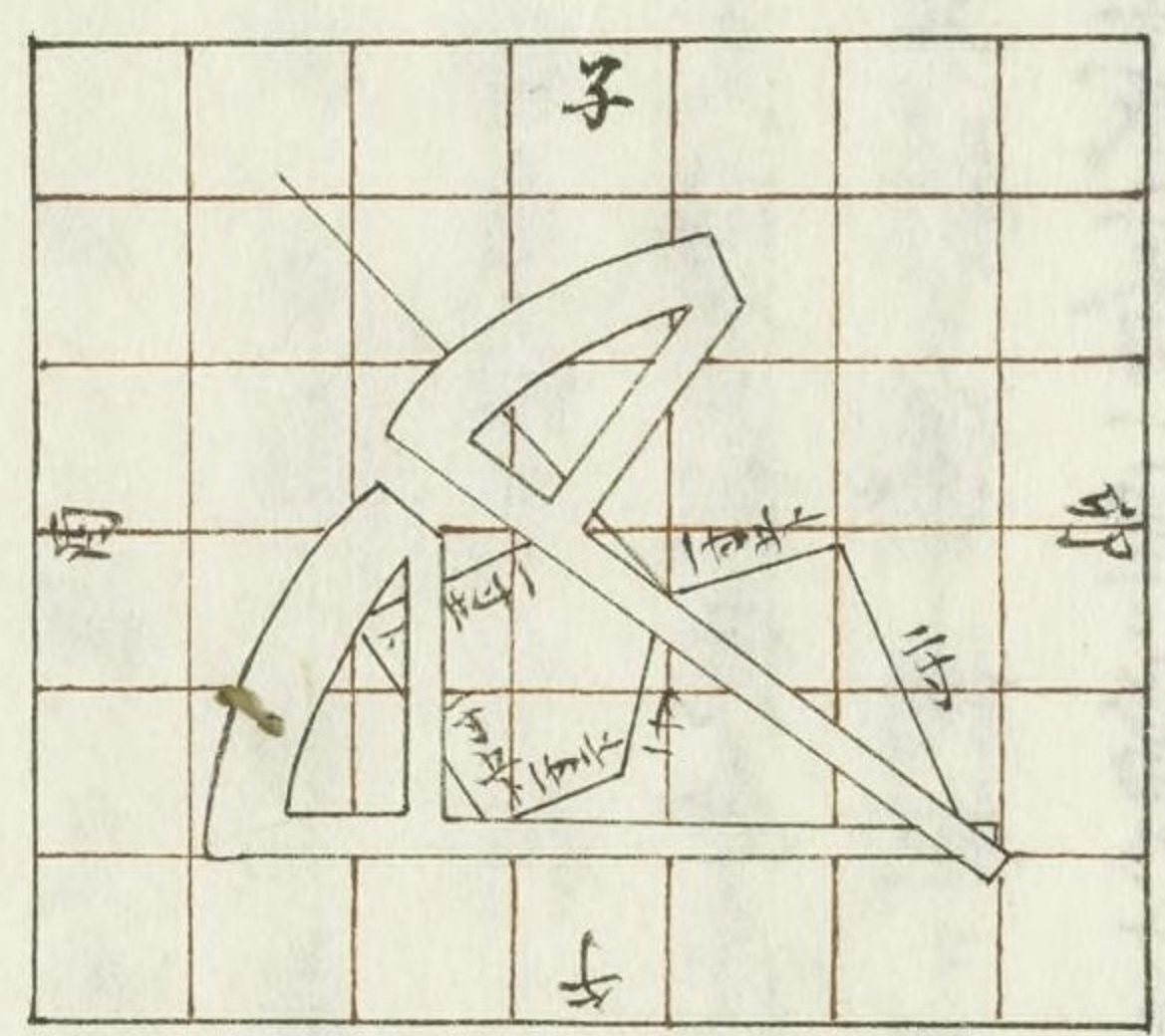
分針ヲ立テ其針ヲ限リ之分度ヲ煩ニ廻只
 固柄矩成ニ當ル即チ八分所ニ分針ヲ立テ
 固柄矩リ合セ一寸五分墨ヲ引ナリ借墨ノ
 止リ一分度ヲ移レ固且ノ分附ナル故ニ先分
 度ヲ子ニ合ス分針ヲ立テ其分針ヲ限リ
 柄矩ヲ煩ニ廻セ八分固柄矩且ニ當ル即チ五分八
 リ所ニ分針ヲ立テ固柄矩ヲ合セ一寸五分
 墨ヲ引ナリ





右ノ如ク墨引出來ノ後甲ヨリ乙一墨ヲ引渡シ
 右分間ヲ以テ計リ見レハ四十二間ト知ル即チ
 糸引ノ貫キ四尺二寸ニ相應ス。右貫キノ文字
 ノ通リヲ知リテ記シ而ノ後規矩元器并
 指北等ヲ用常ノ分附ノ如クシテ其ノ文字
 通リヲ指スナリ但シ是ハ真術ヲ成ストキ
 用ル業ナリ

割分附ノ法左ニ圖ス



引渡ノ寸分矩ヲシテ分度ノ柄矩ニ不及片ハ如

甲ヨリ
 乙一 戌ノ二分

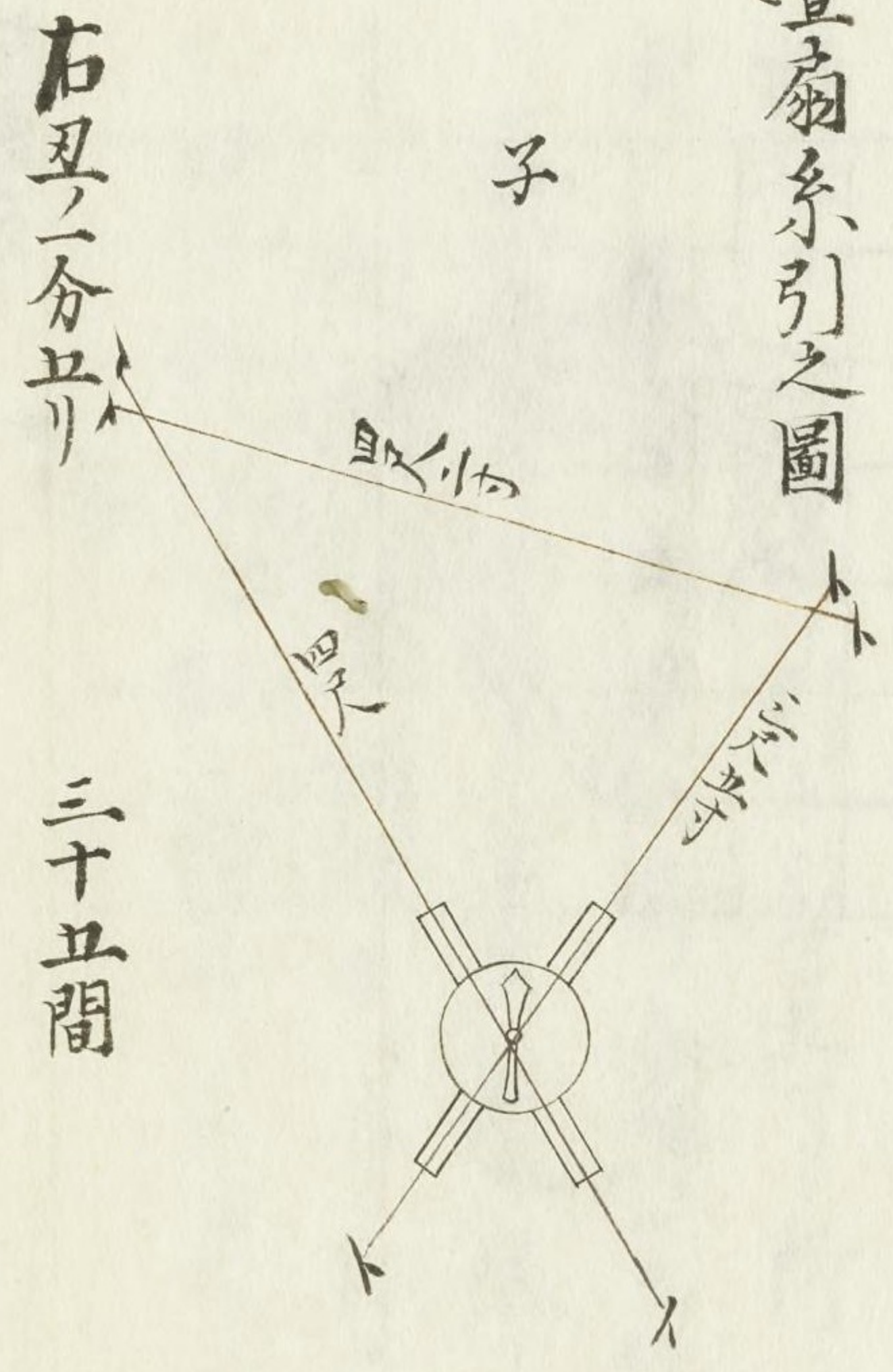




圖其墨字益出スヘシ其解ハ左圖ノ如シ右圖
 解去甲乙一何ノ支幾ク分厘ニ當ルゾト知シ
 ト欲ハ先紙上ニ於テ度量スヘシ引渡シ墨字
 午卯酉ノ四支ノ内何レニ近キヤト考ヘ見テ其
 近支酉ナル故先分度ヲ酉ニ合セ分針ヲ立
 テ其針ヲ限リ柄矩ヲ順ニ廻セハ直ニ引渡シ
 墨戌二分二厘ニ當ルナリ。○ 借甲ノ場ニ出テ規
 矩元器并指北等ヲ以テ戌ノ二分二厘ニ見

當ヲ合セ其通抗ヲ二本ナクテ通りヲ定テ
 置ナリ

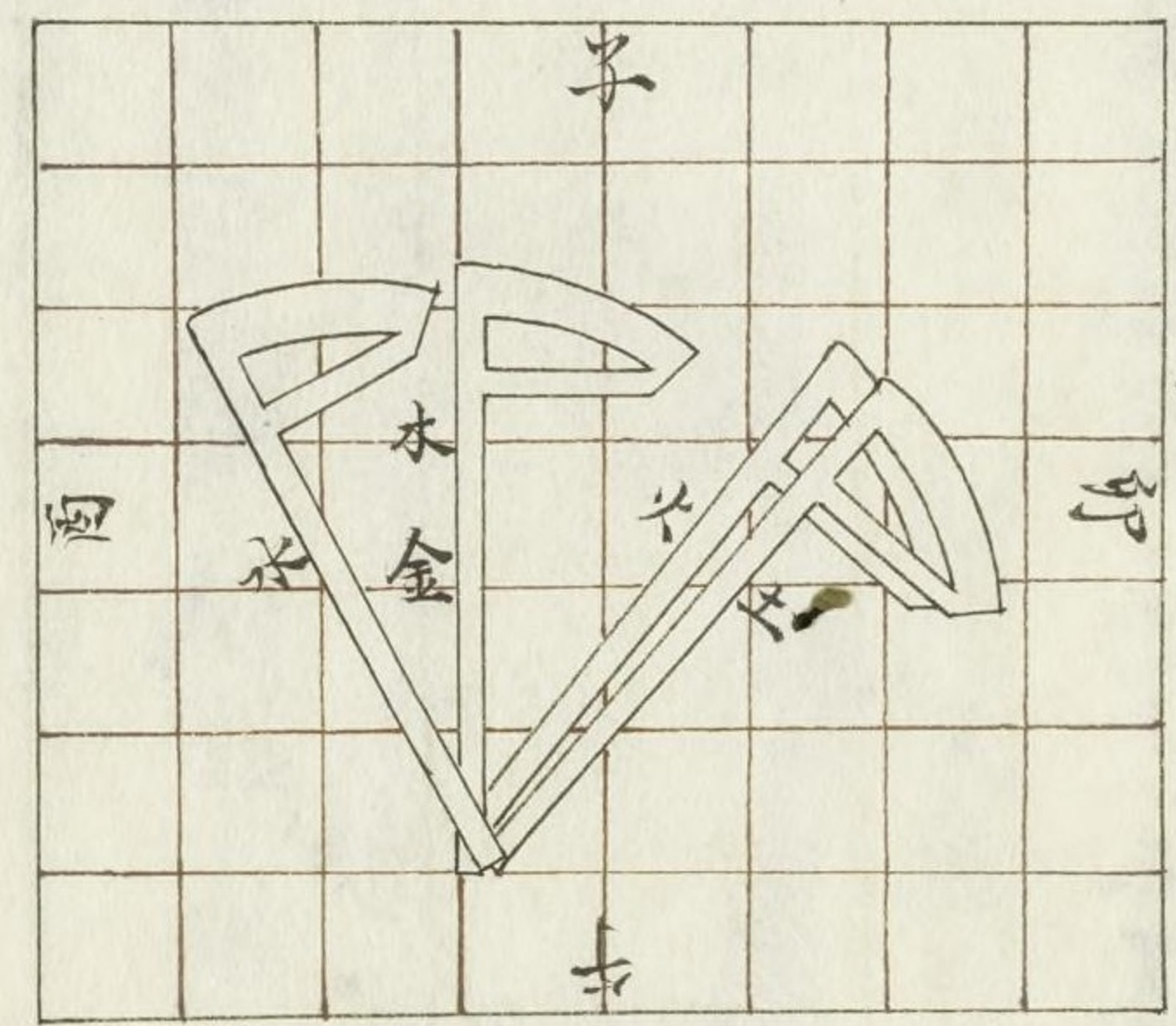
墨扇系引之圖





度ヲ子ニ合セテ分針ヲ立テ其針ヲ限リ柄矩
 ヲ廻セハ(火)丑ノ當ル即チ一分五リノ所ニ(土)
 柄矩ヲ合セ墨ヲ引キ二寸五寸ノ所ニ止リテ
 記ス(金)左ノ方ノ見込亥ノ分附ナル故分度
 ヲ又子ニ合セ分針ヲ立テ其針ヲ限リテ分
 度ヲ逆ニ廻セハ(水)柄矩亥ノ當ル即チ墨ヲ
 引四寸ノ所ニ止リ記シ借止リ引渡スナリ

右圖解云(木)右ノ見込丑ノ分附ナ故先分



左亥支
 四寸



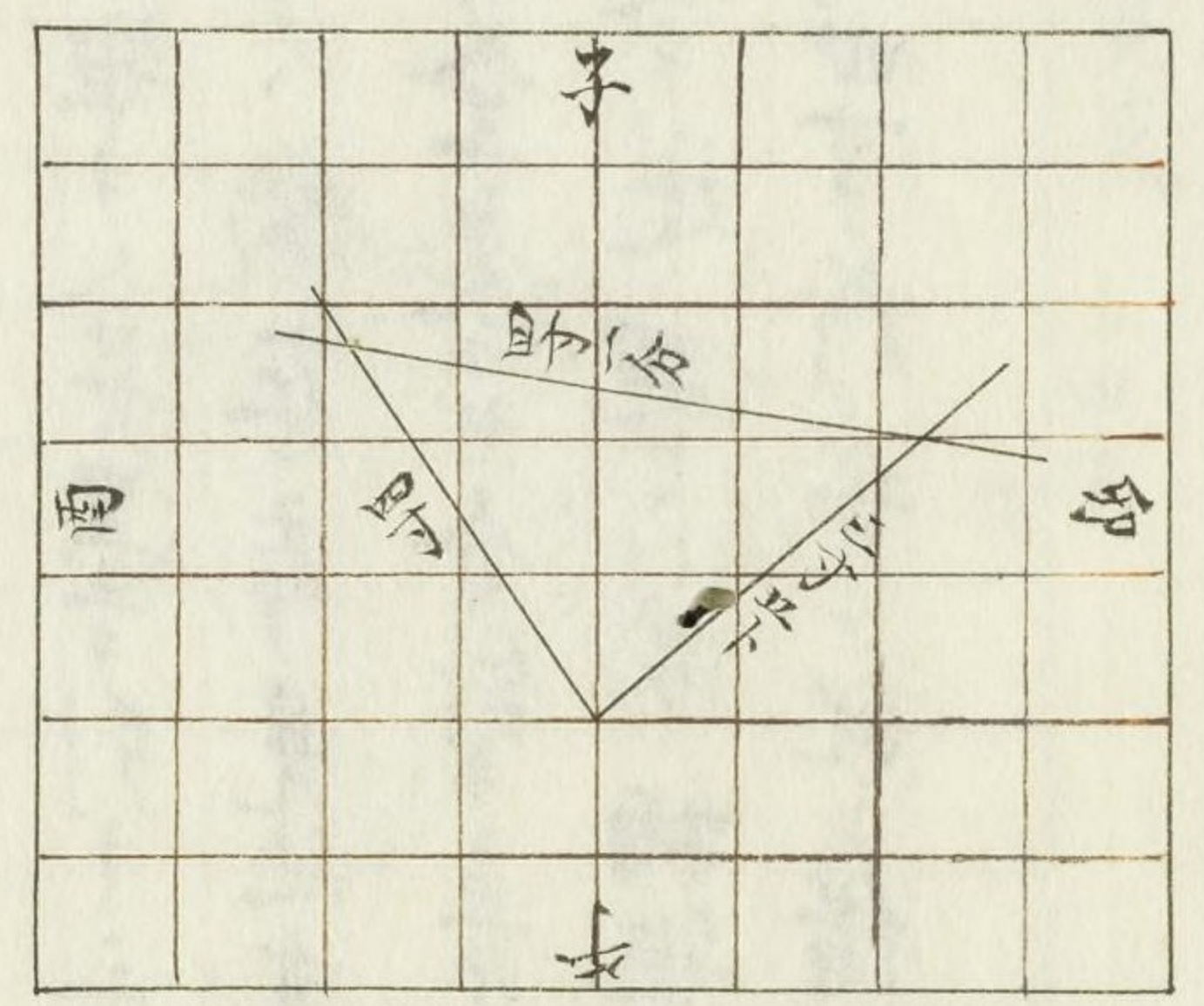


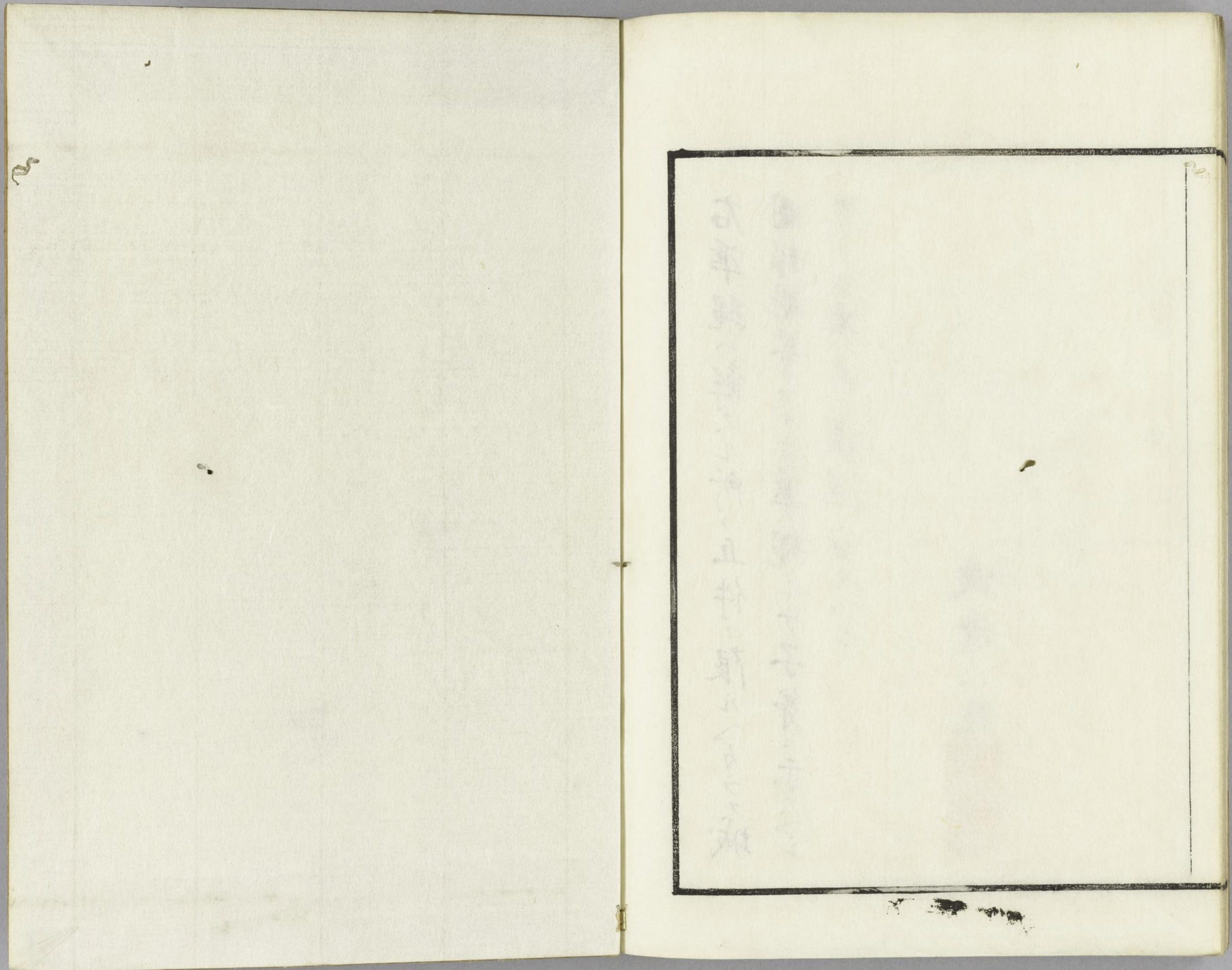
右準繩ハ解スル所ノ五件ニ限ルヘカラス城
 圖邦圖等マテ七準繩ニテ子第ニ示スレ
 然レ其才ノ淺深ニヨルヘシ

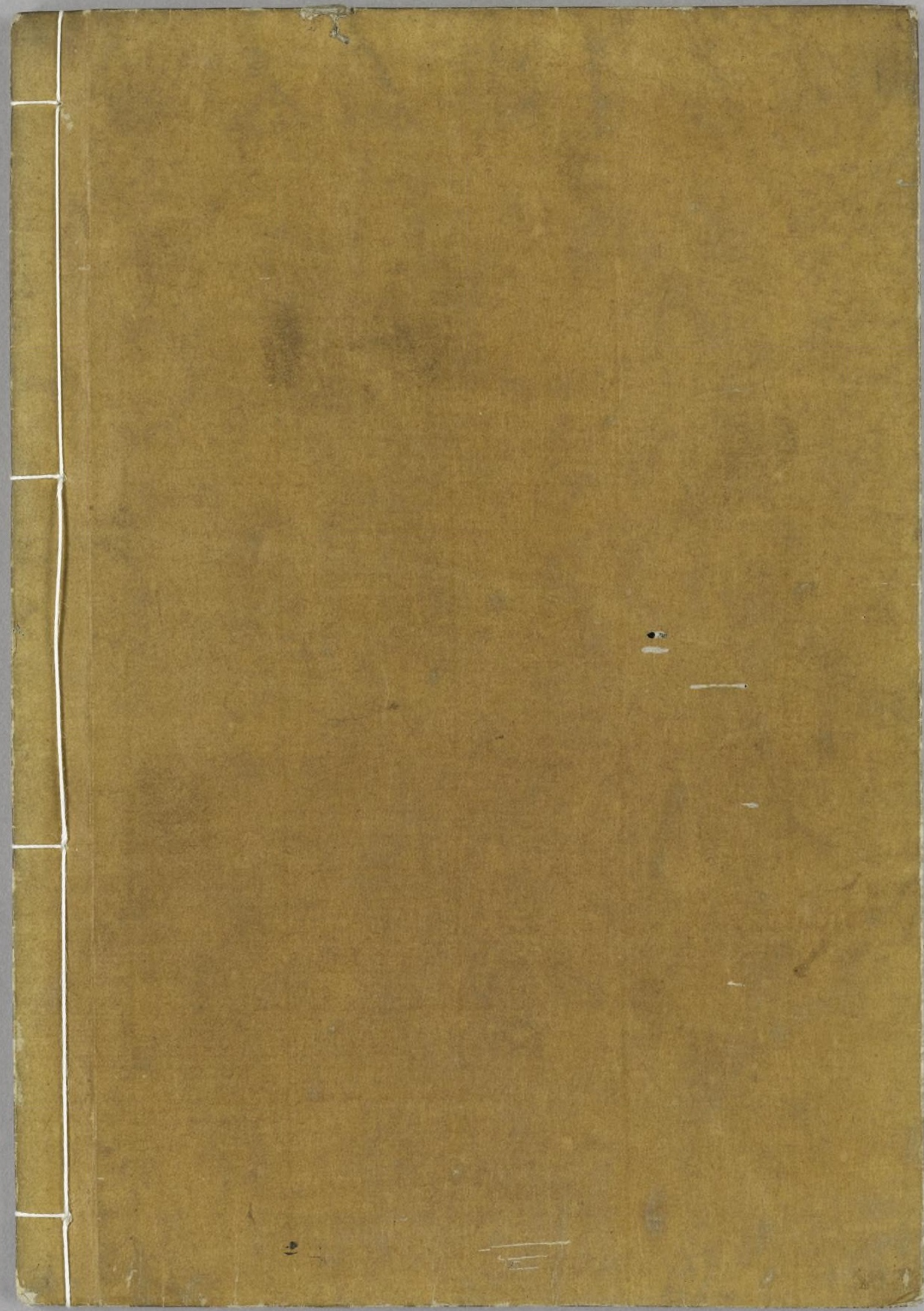
渡邊以親



右圖ノ如ク引渡シ四寸一分有之糸引ニ四尺一
 寸ニ應スナリ







規矩要法口傳私録 212-54 02- 039

国立国会図書館

